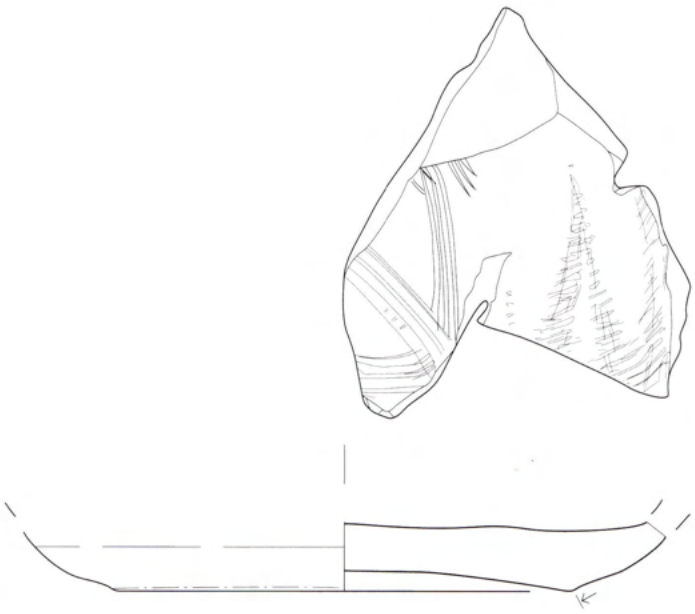
今帰仁村文化財調査報告書第35集

# 今帰仁城跡発掘調査報告Ⅶ

## ―今帰仁城跡外郭発掘調査報告4―



平成29年（2017） 3月

沖縄県今帰仁（なきじん）村教育委員会

今帰仁村文化財調査報告書　第35集

# 今帰仁城跡発掘調査報告Ⅶ

―今帰仁城跡外郭発掘調査報告4―

平成29年（2017）3月

沖縄県今帰仁（なきじん）村教育委員会

# 序

本報告書は、史跡今帰仁城跡附シイナ城跡の保存修理事業に伴う今帰仁城跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。

収録したのは、平成23年度～平成27年度に史跡整備事業及び活用推進事業に伴って実施された発掘調査の報告書であります。これまで今帰仁城跡では様々な調査研究が行われ、特に主郭では城郭の主要部分における利用の変遷や王城としての機能をうかがい知ることのできる傑出した陶磁器の出土、あるいは志慶真門郭においては家臣団的集団の居住区の確認など多くの興味深い資料が得られています。以上のように郭内の面的調査によって得られた情報は今帰仁城跡の復元整備において参考にされ着実に整備が進められているところであります。

また、2000年12月には県内9資産とともに、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」として今帰仁城跡が世界遺産登録されており、近年ではグスクにとどまらずにその周辺地域の調査が進むことで、今帰仁城と集落の実像が解明されつつあります。

平成27年10月には6次指定として新たに約1.3haが追加指定され、史跡総面積は34.6haにまで拡大しております。今帰仁村では今帰仁城跡周辺地域が史跡今帰仁城跡と一体となる文化財として保護・活用を図ることを目指しており、本調査によって発掘された出土資料は地域の住民に公開され活用していくことを計画しております。

最後に、これまで調査にあたっては貴重なご指導を賜りました文化庁文化財部記念物課、沖縄県教育委員会文化財課、県立埋蔵文化財センターをはじめ、調査を指導していただいた今帰仁城跡調査研究整備委員会の先生方に心から御礼申し上げます。

平成29年3月

今帰仁村教育委員会
教育長　新城　敦

# 例　言

1．本報告は、今帰仁村教育員会が実施した、「歴史の道保存整備事業・公開活用推進事業・歴史活き活き総合活用推進事業」で、国・県の補助を受けて、平成23年に実施した「今帰仁城跡外郭第15次調査」・「今帰仁城跡外郭第16次調査」、平成24年に実施した「今帰仁城跡外郭第17次調査」・「今帰仁城跡外郭第20次調査」、平成25年度に実施した「今帰仁城跡外郭第22次調査」の成果を主に収録したものである。

2．発掘調査、資料整理等で次の方々のご指導、ご協力を得た。記して謝意を表する。
陶磁器に関する所見：宮城弘樹（沖縄国際大学）、柴田圭子（愛媛県埋蔵文化財センター）
遺跡全体の調査に関すること：金武正紀（今帰仁城跡調査研究整備委員長）、池田孝之、花城良廣、赤嶺和雄、高橋誠一、松井幸一、上原靜、田中哲夫、渡辺美季（今帰仁城跡調査研究整備委員）
発掘調査にあたっては本中眞（文化庁記念物課）、三宅克広（〃）、内田和伸（〃）、中井（〃）、盛本勲（沖縄県教育庁文化財課）、伊禮良栄（〃）、上地博（〃）、富田志恒（〃）、金城亀信（〃）、金城篤（〃）、宮城仁（〃）ほか多くの先生方からご指導ご鞭撻をいただいた。

3．発掘調査は今帰仁村教育委員会によって実施された。本報告の執筆編集は與那嶺俊・有銘倫子・仲村善洋・仲宗根理沙・山城勝であたった。

4．資料整理は下記のメンバーで行った。
上間恵子　松本綾子　玉城静香　神山千恵子　島袋滝子　山城留利子　大城咲江

5．現地での写真撮影は與那嶺・有銘・仲村・仲宗根・玉城綾が担当した。遺物の撮影は與那嶺・仲宗根・山城・玉城静香・松本綾子・島袋滝子が担当した。

6．出土遺物と発掘調査にかかる資料はすべて今帰仁村教育委員会(今帰仁村歴史文化センター)において保管する。

7．報告書の引用・参考文献は巻末に収めた。

# 目　次


第Ⅰ章　序言……1
　第１節　調査に至る経緯　……1
　第２節　保存と整備　……1
　第３節　保存と整備のための委員会　……2
　第４節　調査体制　……2

第Ⅱ章　調査概要……4
　第１節　調査地域　……4
　第２節　調査経過　……4

第Ⅲ章　遺跡……6
　第１節　位置と環境　……6
　第２節　遺構　……12
　第３節　層序　……13

第Ⅳ章　報告……14
　第１節　屋敷地６（外郭 14 次調査）……14
　　１．遺構……14
　第２節　屋敷地７（外郭 15 次調査　……16
　　１．層序……16
　　２．遺構……16
　　３．出土遺物……23
　第３節　中区試掘調査（外郭 21 次調査）　……35
　第４節　カーザフ西側城壁（外郭 17 次調査）　……36
　　１．層序……36
　　２．遺構……41
　　３．出土遺物……41
　第５節　カーザフ北側城壁（外郭 20 次調査）　……42
　　１．層序……42
　　２．遺構……42
　第６節　カーザフ東側城壁（外郭 22 次調査）　……43
　　１．遺構……43

第Ⅴ章　総括……46

# 第Ⅰ章　序　言

今帰仁城跡外郭は今帰仁城内の最も北側の郭で、昭和54年に追加指定された地域にあたる。その郭の面積は約20,000㎡で今帰仁城跡の郭の中でも最も広い地域となっている。また、カーザフ郭は外郭中区の南に位置し石灰岩が露頭した迫地となっている。

本報告では、外郭城外地区の屋敷地6、屋敷地7、外郭中区で行った試掘調査とカーザフ北側城壁調査、カーザフ郭の西側城壁の根石確認調査、カーザフ郭の東側及び南側城壁の根石確認調査である。

## 第1節　調査に至る経緯

国指定史跡今帰仁城跡の近傍に庁舎場や便益施設等を設置する計画が持ち上がった。目的は史跡指定地内にある駐車場を撤去するための代替として計画されたものであった。事業は北部振興策事業によって今帰仁村が主体となって実施された。平成17年7月には整備を完了し今帰仁村グスク交流センターを開館させた。これら新たな施設が設置されたことによって城内の駐車場が撤去され、史跡が機能していた往時の姿へと復元されつつある。他方、駐車場から平郎門へ向かう導線上に、史跡の理解を促すためのガイダンス広場として、今帰仁城跡の地形模型（S=1/100）を設け、今帰仁城跡及び周辺地域の現況を一瞥できるように工夫している（平成19年度報告）。

さて、上記の整備事業の進捗に伴って城内駐車場は不用となり撤去されたことで、これまで目立たなかった外郭地区が景観的にあるいは史跡散策を目的として利用導線上重要な地域として重要度が増し、整備を早急に行うべき地域として位置付けられることとなった。これに伴って、平成17年度からは従来の史跡整備事業から史跡等総合活用推進事業へ事業を移行させ、早期整備と史跡の活用に関する充実を目指し整備を進めることを計画した。計画については、整備委員会をはじめとする関係機関との議論を重ね、史跡の総合的な活用を目指すこととした。

## 第2節　保存と整備

外郭の整備事業では城外地区を東西、城内を東区・西区及び中区のおおむね5つの地区に大別している（図1）。このうち、今回の対象となるのは城外西地区にある屋敷地6・屋敷地7と、中区の試掘調査、カーザフ郭城壁根石確認調査である。屋敷地6・屋敷地7は平成22年度より発掘調査を開始した。屋敷地7は平成23年度に遺構検出面までの掘削を行い平成26年度に張芝による修景整備を行いった。屋敷地6は遺構の表示を含めた整備を検討している。中区の試掘調査は平成25年度に実施し、遺構面と堆積状況を確認したのちに埋め戻した。また、カーザフ郭については郭を囲繞する城壁の根石確認調査を行い、カーザフ西側城壁の一部については復元工事を行った。さらに、カーザフ東側及び南側城壁は写真測量を委託業務で実施し記録している。なお、史跡内における調査は遺構検出面までで留める方法を採用に保存することを最優先課題としている。

## 第３節　保存と整備のための委員会

1981 年に今帰仁城跡調査研究整備委員会を発足させ、年１回の整備委員会を開催し、必要に応じて年数回の整備指導をいただいている。なお、事業全体については、本中眞・三宅克広・内田和伸・中井將胤（文化庁）、盛本勲・金城亀信・上地博・伊禮良栄・富田志恒・金城篤・宮城仁（県文化財課）のご指導をいただいた（敬称略）。

委 員 長　金武　正紀　［元今帰仁村発掘調査アドバイザー・考古学］（平成 22 年度～ 28 年度）
副委員長　與那嶺幸人　［今帰仁村長・行政］（平成 23 年度～ 28 年度）
副委員長　喜屋武治樹　［今帰仁村長・行政］（平成 28 年度）
委　　員　池田　孝之　［一般財団法人　美ら島財団理事長・都市計画］（平成 23 年度～ 25 年度）
委　　員　花城　良廣　［一般財団法人　美ら島財団理事長・造園］（平成 26 年度～ 28 年度）
委　　員　上原　靜　　［沖縄国際大学・考古学］（平成 23 年度～ 28 年度）
委　　員　田中　哲雄　［元東北芸術大学・史跡整備］（平成 23 年度～ 28 年度）
委　　員　高橋　誠一　［関西大学・地理学］（平成 23 年度～ 26 年度）
委　　員　松井　幸一　［関西大学・地理学］（平成 27 年度～ 28 年度）
委　　員　渡辺　美季　［歴史学］（平成 23 年度～ 28 年度）

## 第４節　調査体制

調査体制は村教育委員会が主体となって実施した。事業全体の総括責任者は教育長、課長、課長補佐までが担い、調査担当者は宮城弘樹、玉城靖、與那嶺俊の専門職員によって充てた。なお、当該職員だけでは事業の遂行は困難であることから、補助員として有銘倫子、仲村善洋、玉城綾、仲宗根理沙らによって現場・資料整理の調査補助を行った。また、実際の現場、資料整理については複数名の臨時職員にご尽力いただいた。

〈平成 23 年度～平成 28 年度　発掘調査・資料整理〉

| | | |
|---|---|---|
| 事業主体 | 今帰仁村教育委員会 | |
| 事業責任者 | 教育長 | 謝花　弘（平成 23 年度～ 25 年度） |
| | | 新城　敦（平成 25 年度～ 28 年度） |
| | 社会教育課長 | 上間　恒章（平成 23 年度～ 26 年度） |
| | | 与那　満（平成 27 年度～ 28 年度） |
| | 社会教育課長補佐 | 長田　光吉（平成 23 年度～ 25 年度） |
| | | 与那　満（平成 26 年度） |
| | | 嘉陽　健（平成 27 年度～ 28 年度） |
| | 補佐兼歴史文化センター館長 | 石野　裕子（平成 28 年度） |
| 事務総括 | 文化財係長 | 宮里　政有（平成 23 年度～ 25 年度） |
| | | 玉城　寿　（平成 26 年度～ 27 年度） |
| | | 新城　亮子（平成 28 年度） |
| | 歴史文化センター係長 | 石野　裕子（平成 25 年度～ 27 年度） |
| | 文化財係主事 | 堀　真一（平成 26 年度～ 28 年度） |
| 調査担当者 | 文化財係専門員 | 宮城　弘樹（平成 23 年度） |
| | | 玉城　靖（平成 23 年度～ 24 年度） |
| | | 與那嶺　俊（平成 23 年度～ 28 年度） |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 調査補助員（臨時職員） | 有銘　倫子 | 仲村　善洋 | 豊口　敬 | 玉城　綾 |
| | 仲宗根理沙 | | | |
| 発掘作業員（臨時職員） | 玉城　京子 | 仲原美代子 | 内間美佐子 | 金城　政利 |
| | 玉城　光則 | 宮城　章 | 大城いち子 | 松田　清美 |
| | 松尾美智子 | 城間　達次 | 仲宗根　健 | 大城　咲江 |
| | 松田健太郎 | 新城　大地 | 五十嵐カヅ子 | |
| | 高良　初江 | 島　盛太郎 | 仲里　亨 | 大城　正泉 |
| | 奥原　彰太 | 北東　園子 | 小泊　敦子 | 広瀬　和美 |
| | 安村明日香 | 当真　美涼 | 又吉　春美 | 松田　洋子 |
| | 金良　照江 | 棚原利香子 | 塩濱　優子 | 天久　満 |
| | 比嘉　風輝 | 田口　惣 | 久田友紀人 | 新垣あゆみ |
| | 山城　勝 | 仲宗根一正 | 仲本　保徳 | 座間味英利 |
| 資料整理（臨時職員） | 松本　綾子 | 玉城　静香 | 島袋　滝子 | 山城留利子 |
| | 神山知枝子 | 上間　恵子 | 大城　咲江 | |

# 第Ⅱ章　調査概要

## 第１節　調査地域

今帰仁城跡は概略 10 の郭から構成されており、外郭はその中でも最も北側にある郭で昭和 54 年度に追加指定された地域にあたる。その郭の面積は約 20,000㎡で今帰仁城跡の郭の中でも最も広い地域となっている。外郭を区画する石垣は北側に 150m にわたり良好な状態で残っているが、門については道路で分断され現況が著しく失われている。また、西側についても残りが悪く土塁状になっているだけで、近代になって破壊された可能性が考えられる。外郭一帯は史跡指定以前から開発されてきた地域で、指定当時には屋敷や店舗が 5 軒あり、駐車場が造成され、道路が外郭を東西に分断している状況であった。村では昭和 49 ～ 50 年度に主要な部分の用地購入を、その後も平成 10 年度から未公有化の土地の積極的な公有化事業を行い、店舗や住宅の物件補償を行うなど史跡の景観の回復に努めてきた。

外郭の郭内の区画はまず大きく分断している現況道路を境に東側を東区、店舗がある中央は中区、西側を西区として調査を行っている。東区では平成 17 年度に駐車場の撤去し、試掘調査を実施した。平成 18 年度からは面的な発掘調査を行い調査の成果に基づき、造成張芝、遺構表示、城壁の復元等の整備を実施した。西区では平成 21 年度より城壁の根石調査を実施した。一部で内壁・外壁とも根石が失われた箇所があったが、それ以外は概ね根石が地中に残存している状況が確認することができた。また、外郭を分断する道路下から外郭からカーザフへつながる城壁が検出されたことは大きな成果といえる。

本報告となる調査地域は、外郭城外地区にある屋敷地６、屋敷地７、カーザフ郭の城壁根石確認調査である。

## 第２節　調査経過

今帰仁城跡内の発掘調査はこれまで志慶真門郭（1,700㎡/S55 ～ 57）、主郭（880㎡/S57 ～ 60）が実施されている。これ以後は城壁の基礎部分を中心に調査を実施しているため、面的な遺構確認の発掘調査は平成 16 年度の外郭調査によって再び着手されることとなった。

外郭調査を本格的に着手した目的は、近年進んでいる周辺地域の整備に伴ってこれまで駐車場となっていて活用が図られていなかった外郭地域を、史跡として積極的に活用できる環境が整ったということが大きな理由である。現今の駐車場から平郎門までの利用導線上にあって、史跡の理解を促すためにも導入部分として位置付けることができる地域である。このため、外郭地域の整備は早急に行われるべきとして、現在も早期完了をめざし、調査・整備を進めている。

発掘調査の計画は概略５年間を一区切りとして、発掘調査前の地形や石垣等の遺構あるいは地籍等を踏まえて東・西・中・城外北西・城外東区の５つエリアに分けて調査を実施することを計画した。外郭整備第一期の５カ年間は、外郭東地区（以下、外郭東区）に設定し、平成 17 年度から平成 21 年度（第２次～ 10 次調査）に発掘調査及び整備工事を実施した。外郭西地区（以下､外郭西区）は平成 21 年度から 23 年度（第 11 次～ 14 次調査）まで根石確認調査を実施した。

**今帰仁城跡外郭第 15 次調査（城外西地区）**

15 次調査は外郭西側城壁とハラクブ地区の間に形成された平坦面にある屋敷地７において実施された。発掘調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として有銘倫子・仲村善洋・玉城綾があたった。屋敷地７では表土層を掘削後、遺物包含層が検出されているが、この遺物包含層検出面で

溝状遺構が検出された。屋敷地 7 の南東には堀切状の遺構が以前から確認されており、この溝状遺構はこの一連のものであると考えられた。遺物包含層からはグスク時代に相当する遺物が多量に出土したほか、柱穴等の遺構も多数検出された。

**今帰仁城跡外郭第 16 次調査（城外西地区）**

16 次調査はサカンケーの拝所の前面に広がる屋敷地 6 の発掘調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として有銘倫子・仲村善洋・玉城綾があたった。

**今帰仁城跡カーザフ郭 17 次調査（カーザフ郭）**

17 次調査はカーザフ郭西側城壁の根石確認調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として有銘倫子・仲村善洋・玉城綾があたった。カーザフ西側城壁は延長約 30 m程度は残存しており、調査は崩落石や雑石を除去し検出された面石及び根石の現況の図面を作成した。

**今帰仁城跡カーザフ郭 18 次調査（カーザフ郭）**

18 次調査はカーザフ郭東側城壁の根石確認調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として仲村善洋があたった。崩落石や雑石を除去し城壁と補築石積みを検出した。

**今帰仁城跡カーザフ郭 20 次調査（カーザフ郭）**

20 次調査はカーザフ北側城壁の根石確認調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として仲村善洋があたった。城壁にトレンチを入れ根石確認調査を実施した。

**今帰仁城跡外郭 21 次調査（外郭中区）**

21 次調査は外郭中区平郎門前の試掘調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として仲村善洋があたった。

**今帰仁城跡外郭 22 次調査（外郭中区）**

22 次調査は外郭中区カーザフ北側城壁の試掘調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として仲村善洋があたった。

**今帰仁城跡外郭 23 次調査（カーザフ郭）**

22 次調査はカーザフ南側城壁の根石確認調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として仲村善洋があたった。崩落石を撤去し、面石を確認した。

**今帰仁城跡外郭 24 次調査（外郭中区）**

22 次調査は外郭中区平郎門前の発掘調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として仲村善洋・仲宗根理沙があたった。

**今帰仁城跡外郭 25 次調査（外郭中区）**

22 次調査は外郭中区カーザフ北側城壁の試掘調査を行った。調査は與那嶺俊が担当し、調査補助として仲村善洋・仲宗根理沙があたった。

# 第Ⅲ章　遺　跡

## 第１節　位置と環境

今帰仁村は沖縄本島北部、本部半島の北側に所在する人口約 9,600 人の自治体である。本島北部地域一帯は中南部に比して全体的に山地主体となっているため「山原（やんばる）」と呼称されている。今帰仁城跡は今帰仁村の中でも西端、字今泊に立地している。城地の立地する丘陵は標高約 100m をはかり、丘陵頂部の主郭・御内原からの眺望は広く、北に伊平屋・伊是名島、与論島を望むことができる良所にある（第２図）。本部半島の地形的特徴は概して山地部に見られる今帰仁層・本部層（与那嶺層）という中生代初期ごろに堆積した地層群と、低地・海岸部に見られる琉球層群の２つのブロックに大別される。今帰仁層群は中生代三畳紀に堆積した地層で、今帰仁城跡の立地する丘陵一帯から本部町の大堂・浜本付近までの地域に広がっている。特に今帰仁城跡の立地する北西部には、結晶化が進んで硬質、厚さが平均して 20cm 前後で割れやすい特徴の層状に発達した石灰岩が基盤岩となる。

一方、この今帰仁城跡の周辺には集落遺跡、拝所、御嶽石積遺構などが今帰仁城跡を中心に展開する。今帰仁城跡周辺遺跡の名称はこの関連遺跡群の総称である（第３図）。中心となる今帰仁城跡は今帰仁村大字今泊小字ハンタ原に所在し、城壁に囲まれた面積は約 4ha の広さを持つ大規模な城である（第１図）。最高所の標高は約 100m となり、基盤岩の中生代石灰岩の丘陵上に位置する。丘陵の頂上部が主郭、大庭、御内原となり、その東は 70 ～ 80m の深い峡谷をつくり天然の要害となる。東側の谷筋はこの志慶真川が蛇行して流れ、西側の谷筋はタキンチャガーラが流れ東シナ海に注ぐ。今帰仁城御内原の郭に立つと志慶真川の渓谷を脚下に遠く伊是名島、伊平屋島、伊江島、古宇利島を望み、晴れた日には遠く与論島を眺望することができる。今帰仁城跡の城壁は立地する基盤岩の中生代石灰岩という灰色の硬い石を積み上げた石垣で、県内でも有名な阿城である首里城跡、中城城跡、勝連城跡などの白い琉球石灰岩の石垣とは雰囲気が異なる。今帰仁城跡の石垣の総延長は約 1.5km をはかり、屏風上の曲線的に積み上げられている。城壁で囲まれた空間は先の主郭・大庭・御内原以外にも外郭、カーザフ、大隅、志慶真門郭など概ね 10 の郭からなり、石畳や石段で各郭は結ばれている。10 の郭のうち最も北側にあり広い郭が外郭である。城外から外郭へのアクセスを行ったと考えられる門の部分は道路の開削などがあって不明瞭であるが、概ね現在道路に分断された地点にあるものと考えられる。

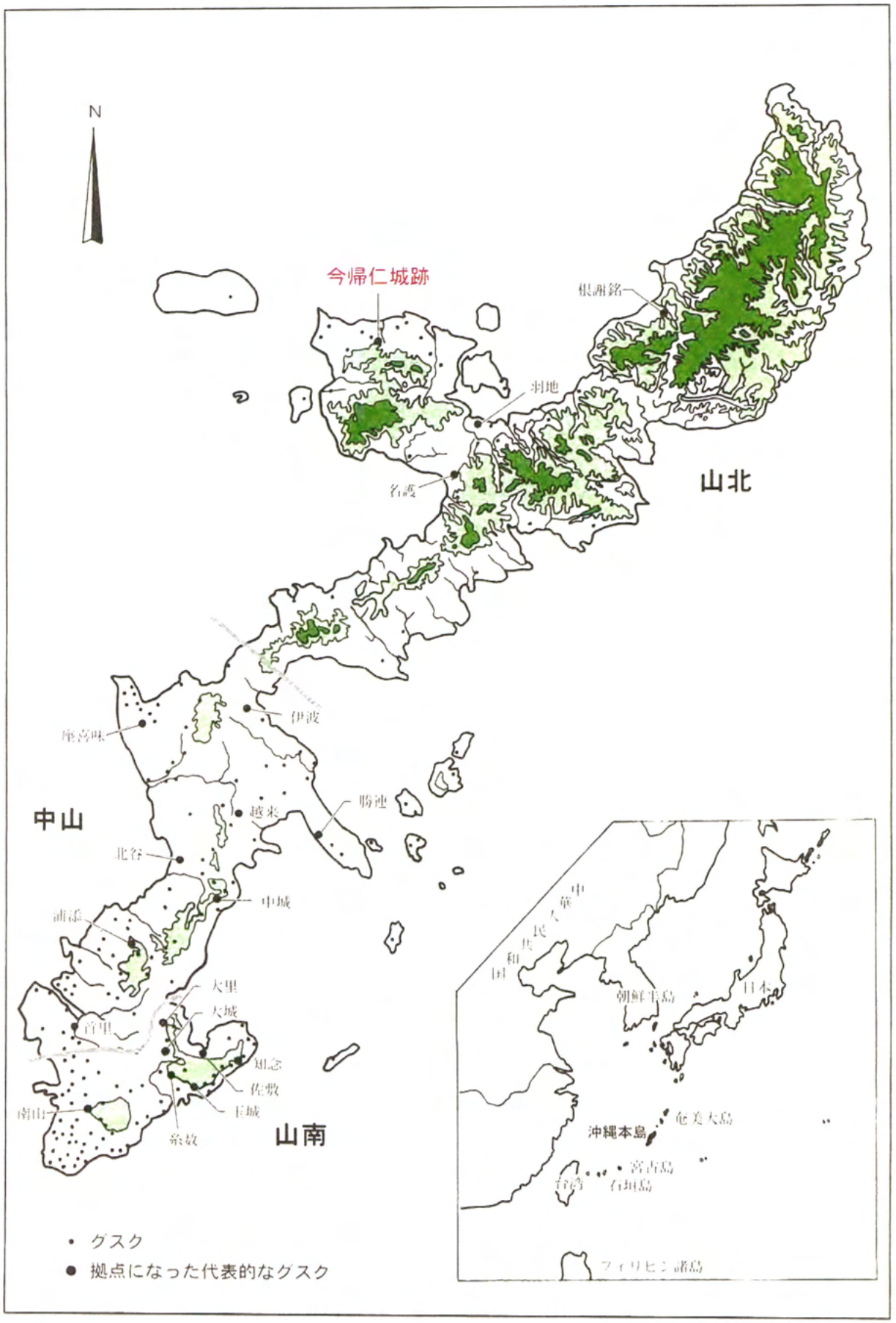
今帰仁城跡の歴史は、琉球が３つの勢力に分かれていた、いわゆる三山鼎立時代に山北（北山）として、中国明代の記録に琉球王国中山王、山南王とともに登場する。これまで確認されている史料をたよりに概要を述べると、最古資料のひとつに『明実録』があげられる。太祖実録巻一五八・洪武一六年一二月庚午朔「琉球國山北王怕尼芝、遣其臣摸結習、貢方物。賜衣一襲。」と記され、山北王「怕尼芝」の名称が記述されるのをもって嚆矢とするようである。以後、記録によれば、最初の 1383 年から最後の 1415 年の 33 年間に山北王怕尼芝が６回、山北王珉が１回、山北王攀安知が 11 回、中国皇帝へ使者を送り朝貢貿易を行ったことが記されている。この時代、山北は沖縄北部地域と奄美大島近隣まで領域として支配していたようである。

しかし、その山北（攀安知）も本島内で急速に勢力を拡大する中山王尚巴志によって 1416 年（1422 年の和田説もある）に滅ぼされてしまう。中山の山北平定後、今帰仁城には中山によって中山王の子弟や重臣を山北監守に任じ、沖縄本島北部やんばる地域を管理している。それは 1665 年に監守体制が廃止されるまで続く。この間のことを監守時代と呼んでいる。この監守時代の間、1609 年には薩摩軍によるいわゆる琉球入りがあり、今帰仁城に立ち寄っていることが従軍日記「琉球渡海日々記」に記されている。日記によれば「首里城へ向かう途中、運天港に停

第１図　発掘調査箇所位置図（S=1/2500）（※アミカケ部分発掘調査箇所）

## 第１表　今帰仁城跡及び周辺遺跡のこれまでの調査

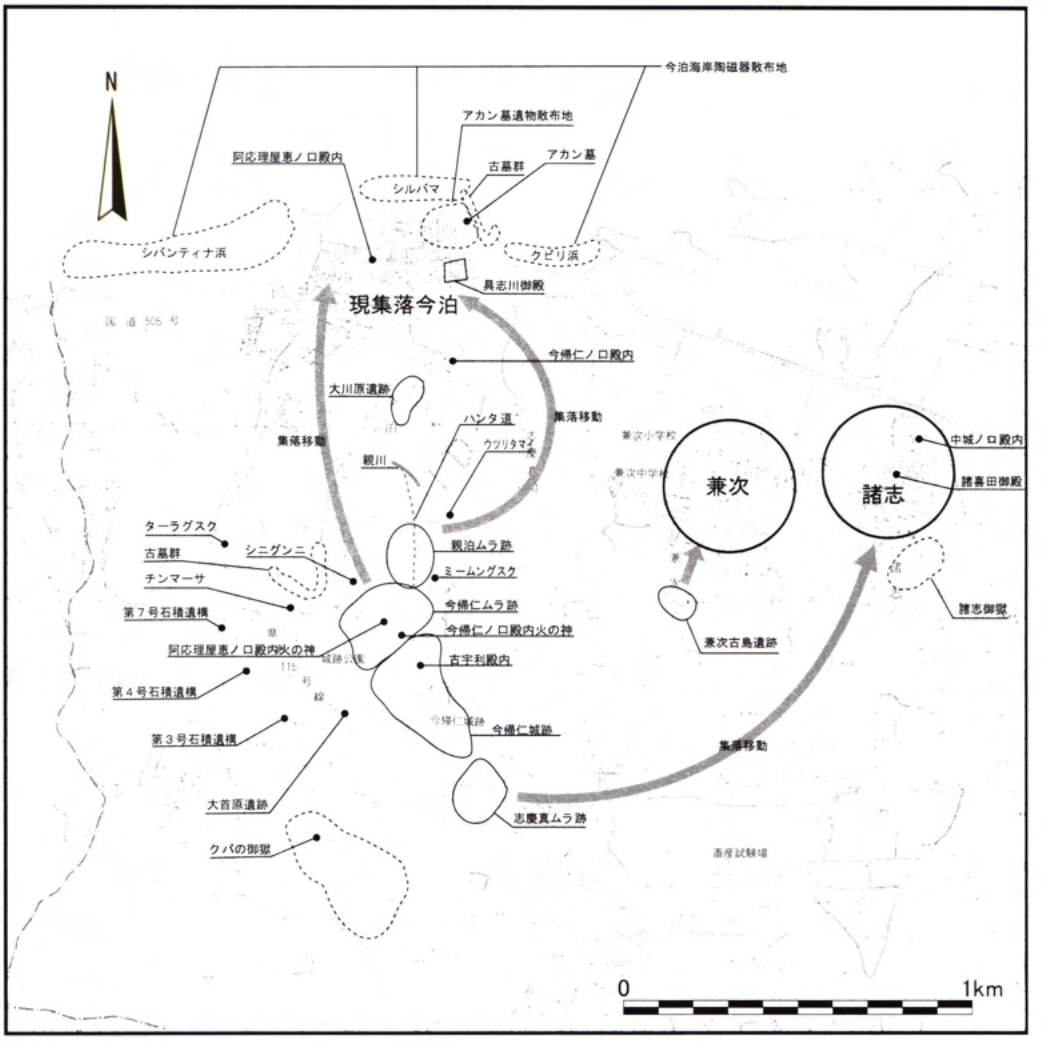
| | | 史跡整備事業等に伴う発掘調査 | | | | 今帰仁城跡周辺遺跡の発掘調査 | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 西暦 | 事業名 | 調査地区 | 調査面積 | 期間 | 調査 | 調査地区 | 調査原因 | 調査面積 | 期間 |
| 平成元年 | 1989 | 主に整備・資料整理 | | | | | | | | |
| 平成2年 | 1990 | 主に整備・資料整理 | 主郭東側城壁（2次）写真測量に伴う崩落石除去（直営） | 約40㎡ | | | | | | |
| 平成3年 | 1991 | 主に整備・資料整理 | | | | | | | | |
| 平成4年 | 1992 | 主に整備・資料整理 | | | | | | | | |
| 平成5年 | 1993 | 主に整備・資料整理 | | | | | | | | |
| 平成6年 | 1994 | 志慶真門郭東側石積み基礎調査 | 志慶真門郭東側石積外壁側基礎 | 約6㎡ | 9/12 ~ 9/13 | | | | | |
| 平成7年 | 1995 | 志慶真門郭東側石積土質調査 | 志慶真門郭東側石積外壁側基礎 | 約20㎡ | 9/13 ~ 1/13 | | | | | |
| 平成8年 | 1996 | 志慶真門郭東側石積試掘調査 | 志慶真門郭北東部北側アザナ調査 | 約20㎡ | 9/2 ~ 9/14 | | | | | |
| | | 志慶真門郭東側石積試掘調査 | 志慶真門郭北東部南側アザナ調査 | 約20㎡ | 10/7 ~ 10/19 | | | | | |
| 平成9年 | 1997 | 志慶真門郭南側石積試掘調査 | 志慶真門郭南側石積外壁側基礎 | 約2㎡ | 6/25 ~ 9/12 | | | | | |
| | | 志慶真門郭南側石積試掘調査 | 志慶真門郭南側石積外壁側基礎 | 約5㎡ | 2/16 ~ 3/24 | | | | | |
| 平成10年 | 1998 | 外郭石積遺構調査 | 外郭西地区石積み遺構調査 | 約10㎡ | 5/11 ~ 7/29 | | | | | |
| 平成11年 | 1999 | 志慶真門外壁遺構調査 | 志慶真門 | 約10㎡ | 4/13 ~ 2/29 | | | | | |
| | | 階段遺構確認補足調査 | 主郭西側階段遺構 | 約3㎡ | 9/30 ~ 10/1 | | | | | |
| | | 主郭東側石積遺構確認調査 | 主郭東側調査（3次） | 約10㎡ | 3/17 ~ 3/26 | | | | | |
| 平成12年 | 2000 | 主郭東側工事に伴う立会調査 | 主郭東側調査（4次） | | 11/13 ~ 2/22 | | | | | |
| | | 大隅城壁修理工事に伴う事前確認調査 | 大隅城壁調査 | 約10㎡ | 9/26 ~ 3/31 | | | | | |
| 平成13年 | 2001 | 主郭東側崩落石撤去工事に伴う立会調査 | 主郭東側調査（5次） | | 9/21 ~ 12/19 | | | | | |
| 平成14年 | 2002 | 主郭東側城壁内壁試掘調査 | 主郭東側調査（6次） | 約40㎡ | 9/2 ~ 9/20 | | | | | |
| | | 主郭東側工事に伴う立会調査 | 主郭東側調査（7次） | | 2/6 ~ 3/27 | | | | | |
| 平成15年 | 2003 | 主郭南側城壁崩落石撤去 | 南側城壁調査（1次） | | 9/1 ~ 10/31 | 2次 | 西区Ⅰ区・Ⅱ区b | 公園整備（記録保存） | 1300㎡ | 4/24 ~ 11/7 |
| | | | | | | 3次 | ハラクブ | | 41箇所（5,000㎡） | 5/14 ~ 7/25 |
| | | | | | | 4次 | 東区（1・7区） | 遺跡範囲確認 | 2地点（30㎡） | 9/24 ~ 10/28 |
| | | 鳥居撤去工事に伴う立会調査 | Z-30 | 8㎡ | 9/30 ~ 10/1 | 5次 | 西区Ⅴ区・Ⅳ区の一部 | 公園整備（記録保存） | 400㎡ | 10/27 ~ 1/7 |
| | | | | | | 6次 | 西区Ⅲc・Ⅳ区（旧称Ⅲd） | | 800㎡ | 12/8 ~ 2/25 |
| | | | | | | 7次 | 西区Ⅳ区 | | 400㎡ | 1/14 ~ 1/26 |
| 平成16年 | 2004 | 第1次外郭発掘調査 | 城外北西区 R-23 ~ 26、S-23 ~ 26 | 400㎡ | 4/21 ~ 3/31 | 8次 | 西区Ⅲa | 公園整備（記録保存） | 400㎡ | 5/13 ~ 11/10 |
| | | | | | | 9次 | 西区Ⅲb | | 600㎡ | 5/13 ~ 12/4 |
| | | 工事に伴う立会調査 | 主郭東南アザナ調査 | | 11/12 ~ 3/21 | 10次 | 西区Ⅱa | | 200㎡ | 12/21 ~ 1/21 |
| | | | | | | 11次 | 道路敷下 | | 200㎡ | 1/20 ~ 3/31 |
| | | 墓撤去立会調査 | U-24 | 9㎡ | 2005年4月 | 12次 | 東区（7区） | 遺跡範囲確認 | 200㎡ | 12/2 ~ 3/31 |
| 平成17年 | 2005 | 第2次外郭発掘調査 | 試掘、東区Ⅸ区 R-28 ~ 29、Ⅲ区Ⅴ-33 ほか | 800㎡ | 8/9 ~ 3/31 | 資料整理 | | | | 4 ~ 3月 |
| | | 主郭南側城壁崩落石撤去 | 主郭南側城壁調査（2次）南西アザナ基礎調査 | 10㎡ | 6/22 ~ 8/22 | | | | | |
| | | 主郭東側工事に伴う立会調査（工事） | 主郭東側調査（8次） | | 1/26 ~ 3/31 | | | | | |
| 平成18年 | 2006 | 第3次外郭発掘調査 | 東区Ⅲ・Ⅳ区 U-33 ~ 36、T-33 ~ 36 ほか | 1000㎡ | 4/24 ~ 3/30 | 補足 | 大川原遺跡 | 法面崩落（記録保存） | 20㎡ | 4月~3月 |
| | | 第4次外郭発掘調査 | 外郭東区城壁基礎調査 | 200㎡ | 4/24 ~ 3/30 | 資料整理 | | | | 4月~3月 |
| | | | | | | 確認 | 今泊集落内 | 遺跡範囲確認 | 4㎡×3箇所 | 6/27 ~ 6/29 |
| | | 主郭南側城壁崩落石撤去 | 主郭南側城壁調査（3次）上段部基礎調査 | 20㎡ | 5月~7月 | | | | | |
| 平成19年 | 2007 | 第5次外郭発掘調査 | 東区Ⅶ区 S-33、R-33・34、Ⅷ区 Q-30 ~ 33 ほか | 1000㎡ | 4/23 ~ 3/30 | 13次 | 親泊ムラ跡（4983番地） | 遺跡範囲確認 | 43㎡ | 9/19 ~ 10/10 |
| | | 主郭南側城壁崩落石撤去 | 主郭南側城壁調査（4次）下段部基礎調査 | 20㎡ | 5月~6月 | 14次 | 志慶真ムラ跡（4853番地ほか） | 遺跡範囲確認 | 32㎡ | 12/1 ~ 12/28 |
| 平成20年 | 2008 | 第6次外郭発掘調査 | 東区Ⅶ区 Q-30、R-30 ~ 32、S-31 | 400㎡ | 7/1 ~ 11/28 | 16次 | ハラクブ試掘調査（4929-1番地） | 遺跡有無確認 | 2㎡×5箇所 | 7月1日 |
| | | 第7次外郭発掘調査 | 外郭東区城壁基礎調査 | 200㎡ | | 15次 | ナガレ庭遺構調査（4699番地ほか） | 測量調査 | 40㎡ | 8/1 ~ 8/14 |
| | | 第8次外郭発掘調査 | 外郭Ⅴ区R-36、S-36 ほか | 400㎡ | | 17次 | 今帰仁ムラ跡（5012番地） | 遺跡有無確認 | 362㎡ | 11/4 ~ 12/9 |
| | | 第9次外郭発掘調査 | 外郭Ⅶ区 Q-32・33 ほか | 200㎡ | | | | | | |
| 平成21年 | 2009 | 第10次外郭発掘調査 | 東区Ⅶ区 Q-30 ~ 33、R-30 ~ 32 ほか | 約600㎡ | 4/15 ~ 10/1 | 18次 | チンマーサ遺構調査 | 測量調査 | 約700㎡ | 8/3 ~ 8/14 |
| | | 第11次外郭発掘調査 | 外郭西区城壁基礎調査 | 約1000㎡ | 4/15 ~ 10/30 | | | | | |
| | | 第12次外郭発掘調査 | 外郭中区県道115号道路下調査 | 約250㎡ | 12/3 ~ 3/31 | | | | | |
| 平成22年 | 2010 | 第13次外郭発掘調査 | 外郭西区城壁基礎調査 | 約1700㎡ | 4/1 ~ 3/31 | 19次 | 今帰仁城跡周辺の旧道調査 | 遺跡有無確認 | | 2/1 ~ 2/21 |
| | | | | | | | 崎原遺跡 | 宅地開発（記録保存） | 549㎡ | 6/1 ~ 12/1 |
| | | | | | | | ターラグスク遺構調査 | 測量調査 | | |
| | | 第14次外郭発掘調査 | 外郭西区県道115号道路下調査 | 約120㎡ | 10/1 ~ 3/31 | | 西長浜原遺跡 | 遺跡範囲確認 | 約20000㎡ | 10/6 ~ 10/26 |
| | | | | | | 20次 | 大首原遺跡 | 駐車場整備（記録保存） | 約5000㎡ | 9/27 ~ 12/31 |
| 平成23年 | 2011 | 第15次外郭発掘調査 | 外郭城外地区屋敷地7 | 約380㎡ | 7/21 ~ 3/23 | | | | | |
| | | 第16次外郭発掘調査 | 外郭城外地区屋敷地6 | 約440㎡ | 9/29 ~ 3/15 | | | | | |
| | | 第17次カーザフ根石確認調査 | カーザフ西側城壁 | 約400㎡ | 11/25 ~ 2/22 | | | | | |
| 平成24年 | 2012 | 第17次カーザフ根石確認調査 | カーザフ西側城壁（補足調査） | 約400㎡ | 7/2 ~ 12/25 | | | | | |
| | | 第18次カーザフ根石確認調査 | カーザフ東側城壁 | | 6/25 ~ 7/19 | | | | | |
| | | 第20次カーザフ根石確認調査 | カーザフ北側城壁 | | 9/11 ~ 11/5 | | | | | |
| | | 大庭・御内原試掘調査 | 大庭、御内原 | 約25㎡ | 5/29 ~ 9/6 | | | | | |
| 平成25年 | 2013 | 第21次外郭発掘調査 | 外郭中区平郎門前発掘調査 | | 9/1 ~ 3/31 | | | | | |
| | | 第22次外郭発掘調査 | 外郭中区カーザフ北側試掘調査 | | 5/9 ~ 3/31 | | | | | |
| | | 第23次カーザフ根石確認調査 | カーザフ南側城壁 | | 1/6 ~ 1/20 | | | | | |
| 平成26年 | 2014 | 第23次カーザフ根石確認補足調査 | カーザフ南側城壁 | | 4/18 ~ 11/4 | | | | | |
| | | 第24次外郭発掘調査 | 外郭中区平郎門前発掘調査 | | 11/1 ~ 3/31 | | | | | |
| 平成27年 | 2015 | 第25次外郭発掘調査 | 外郭中区平郎門前発掘調査 | | 10/5 ~ 3/31 | 21次 | 今帰仁ムラ跡 | 交流センター浄化槽設置に伴う記録保存 | | |
| | | 第17次外郭発掘調査（補足調査） | 外郭城外地区屋敷地7（補足調査） | | 2/1 ~ 3/32 | | 大川原遺跡試掘調査 | 宅地開発（範囲確認） | | |
| 平成28年 | 2016 | 第25次外郭発掘調査（補足調査） | 外郭中区平郎門前発掘調査（補足調査） | | 10/5 ~ 3/31 | | | | | |
| | | 第16次外郭発掘調査（補足調査） | 外郭城外地区屋敷地6（補足調査） | | 11/1 ~ 2/28 | | | | | |



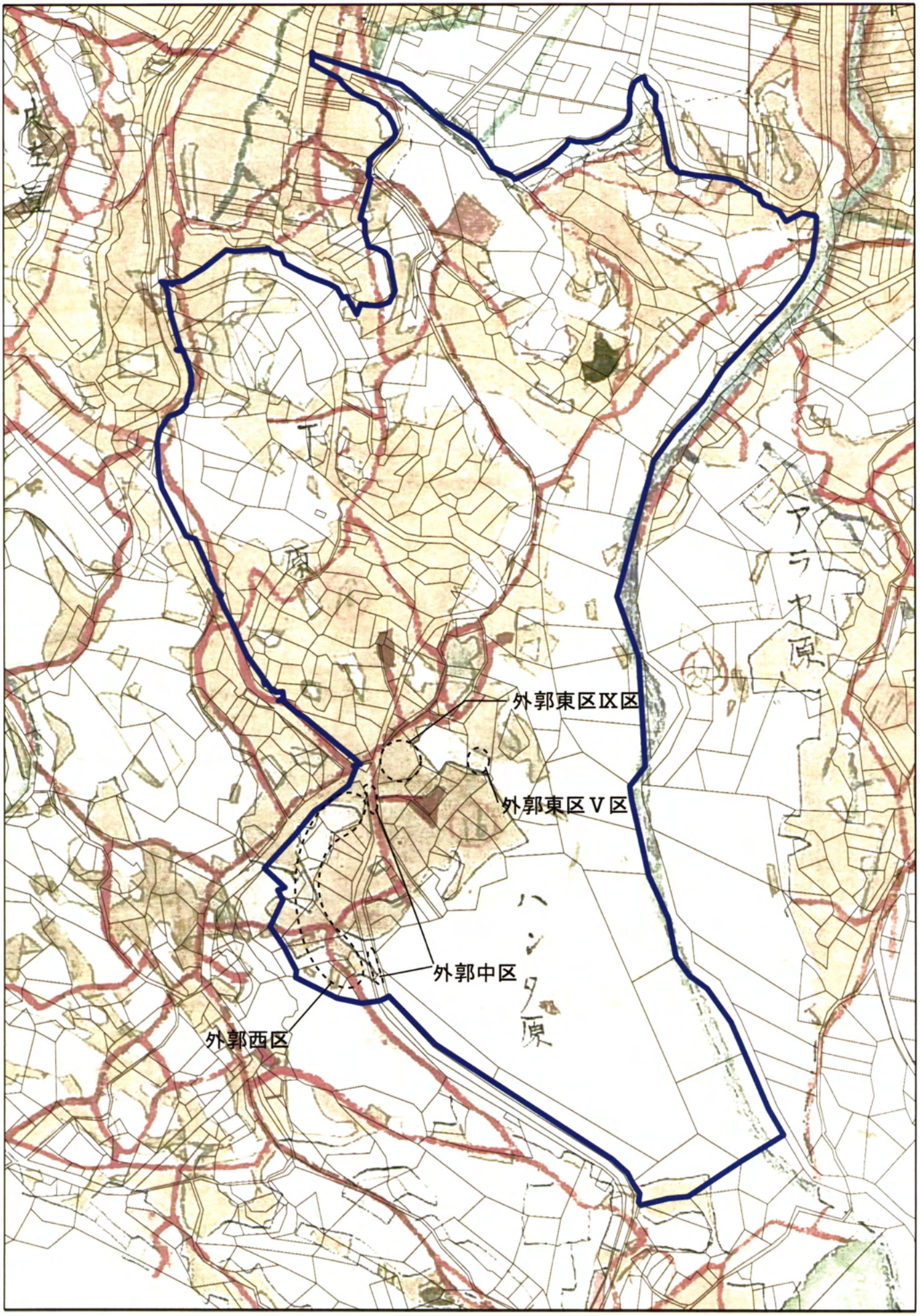

第 2 図　今帰仁城跡位置図

泊、親泊での和議が受け入れられず城へ放火した」とあり、実質的な廃城は監守引き揚げよりも早い、1609 年頃にあったと考えられる。

今帰仁城跡は昭和 47（1972）年には沖縄の日本復帰と同時に国指定の史跡となり、昭和 55（1980）年より今帰仁村が主体となって環境整備事業が進められている。この中で、平成 12（2000）年には世界遺産として登録されたことによって、周辺地域が景観保全地区に指定された。さらに平成 21（2009）年 7 月には城下北側に広がる 11.5 ヘクタールが新たに史跡地域として追加指定され、翌 22（2010）年 2 月にはシイナグスクが追加指定され、『今帰仁城跡附シイナ城跡』として名称が改められた。平成 27 年までに 6 次にわたる追加指定があり、史跡面積合計約 34.6 ヘクタールとなっている。今帰仁城跡周辺遺跡が集落として機能していた時代は今から 500 年以上の時を経ている。現在の土地利用や祭祀空間を直接結び付けることは困難である。しかしグスク時代の景観が大規模な開発を受けることなく今日まで残されており、今帰仁城跡の立地する今泊（旧今帰仁・親泊）をはじめ、具志堅（旧具志堅・上間・真部）、諸志（旧諸喜田・志慶真）、などの村落祭祀の重要な参拝地であるとともに、「今帰仁上り」と称される拝所・旧跡めぐりの重要な参拝地となっていることは重要である。ここから遡って文化的な伝統や、空間利用、景観の復元を行うことは集落のあり方や、検出される遺構を理解する参考となる。実際に調査地点の近傍には各集落、門中の祭祀において重要な参拝地となっている「クバの御嶽」への遥拝を行う「サカンケー」が所在している。「サカンケー」には「参詣」もしくは「坂迎え（あるいは酒迎え）」という語意と解され、南西方向にあるクバの御嶽を遥拝するための香炉が置かれている。




第 3 図　今帰仁城跡および周辺遺跡位置図




第 4 図　今帰仁城跡の現状地積図と明治の地積図の重ね図

## 第２節　遺構

外郭地区は発掘調査以前より地表面に露出している遺構が数多くみられる。石垣はその代表的なもので、今帰仁城跡の大隅郭を区画する大きく蛇行した石垣は存在感のある遺構のひとつである。また、外郭とカーザフ郭を区画する石垣やカーザフ郭西側城壁は一部崩落しているもののオリジナルのままの姿をとどめている遺構である。

発掘調査において検出された遺構は柱穴、土坑、土留石積、石敷きなどの遺構である。この他、屋敷地７においては第２次大戦中に掘られた塹壕と考えられる遺構が発見された。なお、基本的には発掘調査時に検出された検出面までの確認で留めており、グスクが城として機能していた時代の調査地区における最も上位の遺構までの調査となっている。ただし、一部の遺構については、整備委員会の指導に基づいて遺構の検出作業を実施している。

今回確認された遺構は以下のとおりである。

種類

・柱穴（Pit、記録上「S」に番号を付して整理した）：柱の穴。
・土坑（SK）：柱穴とは異なり、遺構検出面で検出された遺構の掘方の径が広く円形ではなく、不整形の場合は、土坑として調査を行っている。
・石積み遺構（城壁、もしくはSR）：今帰仁城跡の場合、発掘以前より地表面に現れているグスクの防御線を構成する石積み遺構は「〇〇城壁」と呼称されている。一方、城壁以外にも複数の石積み遺構があり、城壁の規模にははるかに及ばないが、石積み遺構、あるいは石積み根石のみ現存する石列が確認されており、SRと呼称している。
・建物跡（SB）：住居等の建物跡で、建物跡を構成すると考えられた石列や石敷きなどもこれに含めた。
・道路状遺構（SW）：石畳等通用路を構成すると考えられる遺構。
・溝状遺構（SD）：溝状に掘り込まれた遺構。屋敷地7では戦時中の塹壕とみられる遺構が検出された。
・不明遺構（SX）：整理時点においても遺構の機能が判然とせず、時期も不詳の資料は不明遺構としている。
・造成層：遺跡を覆う堆積層として整理されている。遺構内の覆土は、覆土の表記方法に従う。
・覆土：遺跡を覆う堆積層の層序はⅠ・Ⅱ・Ⅲ…で表記したが、遺構を覆う堆積層は上から順に「ⅰ・ⅱ・ⅲ…」で表記している。

## 第３節　層序

遺跡全体を覆う堆積層は、現代の表土・旧耕作土であるⅠ層で、この下にグスク時代の遺物包含層が堆積する。また、グスク時代の包含層下に堆積する層が造成土による堆積層、岩盤の露頭、遺物を全く含まない自然堆積層の地山などいくつかのパターンが認められる。屋敷地７の中央部を東西に横断するB-21,B-20,B-19グリッド南壁を基本層序とした（第５図）。

外郭城外西地区基本層序

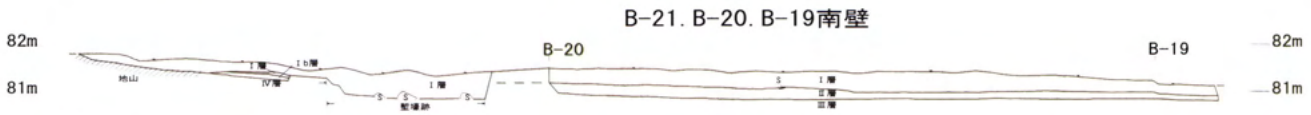
Ⅰ　層：【褐色土層】表土・耕作土層。調査区の平坦面のほぼ全域がおおわれる。地表面から約30 ～ 40cm堆積している。調査前は樹木や竹が繁茂していたが、畝の跡が残っており、かつては耕作が行われていた。

Ⅱ　層：【暗褐色土層・褐色土層】当該遺跡の形成期のグスク時代の遺物包含層。遺跡全体を覆う。屋敷地７で検出される遺構のほとんどがこの時期のもので、15世紀から16世紀の遺物が得られている。

Ⅲ　層：【にぶい黄褐色土・褐色土・暗褐色土】遺物包含層。Ⅱ層の遺構が検出される。掘削はしていないため詳細は不明。

Ⅳ　層：【褐色土層】屋敷地７の一部でみられた堆積層。遺構が検出される。岩が風化した細礫を多く含み地山漸移層とみられる。

地山層：【明黄褐色土層】無遺物の自然堆積層。風化岩が筋状に検出される。古期石灰岩が露頭する。




第５図　屋敷地７基本層序

# 第Ⅳ章　報　告

## 第１節　屋敷地６（外郭 16 次調査）

屋敷地６は村道今帰仁城跡線と外郭西側城壁の間にあり、サカンケーの拝所の前面に広がる平坦面に形成された。道路によって北から西側にかけては破壊されており全体の確認はできなかった。北東側と東側は１段高くなり外郭西側城壁によって区画される。南側は岩盤が露頭する地域が広がり、その南側に屋敷地７が分布する。

屋敷地６は今帰仁村グスク交流センター第２駐車場のすぐそばにあり道路を挟んだ第２駐車場は屋敷地５として調査が行われた。屋敷地５の遺構検出面とは１ｍ以上の高低差がある。調査は平成 22 年度に試掘調査を行い、翌 23 年度から全面を掘り下げた。本地区は駐車場及び道路からも近く観光客の目に付きやすい場所に位置し、グスク周辺の集落遺跡の様相を伝えるに最適な場所といえる。このことから、整備委員会の指導も受けながら住居跡の復元ができるよう慎重に以降の検討を行った。検出された遺構は以下のとおりである。なお、層序及び出土遺物については整理の都合上次回に報告する。

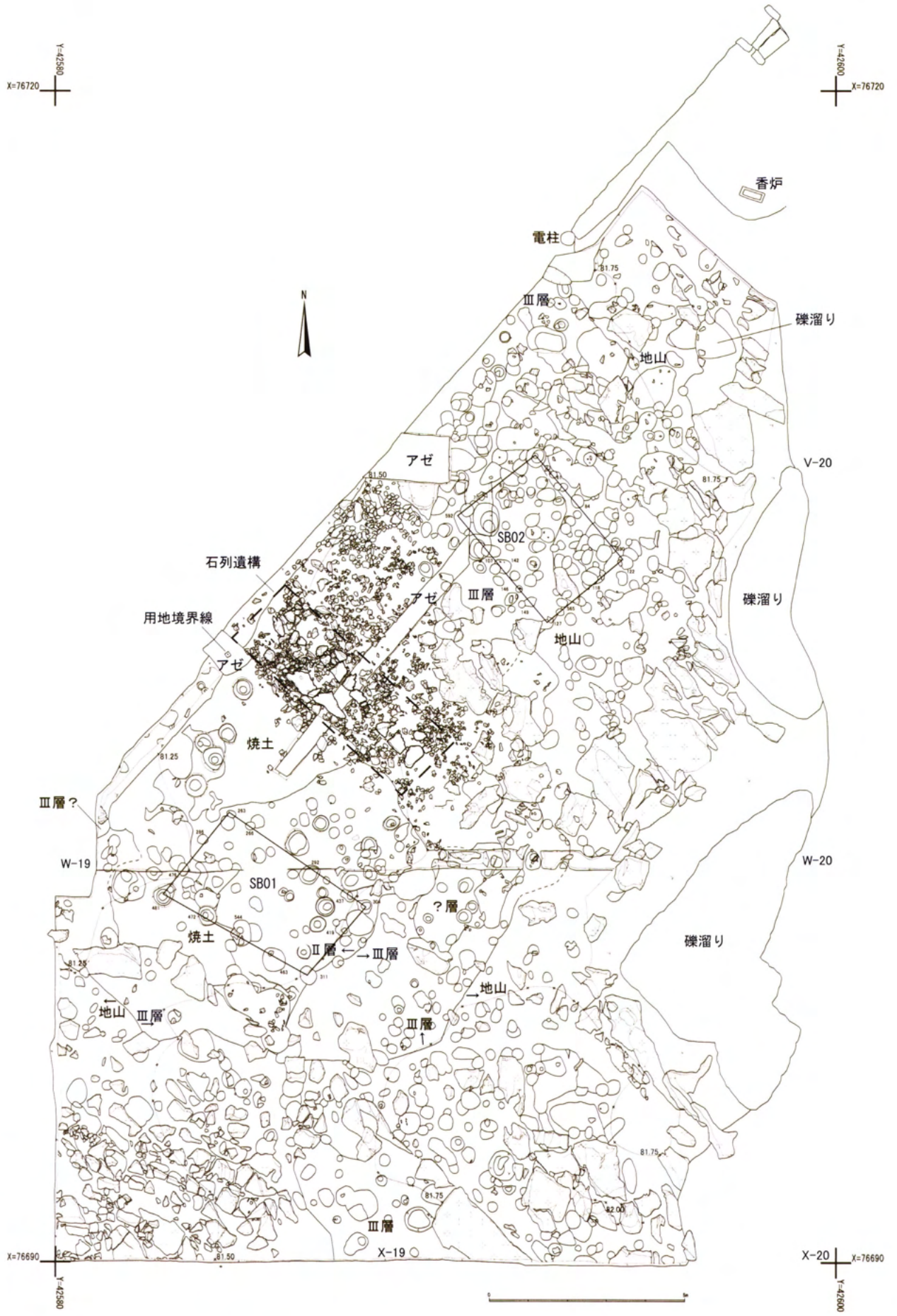
### １．遺構

屋敷地６では表土・旧耕作の下からグスク時代の遺物包含層が堆積している。遺物包含層を掘削すると多量の遺物のほか、多数の遺構も検出された。調査の結果として、屋敷地６は調査区中央部の石列遺構とその周辺の集石遺構を境に２か所に建物跡があったと推定できた。この２か所からは多数の柱穴が検出されている。今報告では、要検討ではあるが２棟の推定建物跡と、建物跡の間にある石列及び集積遺構を報告する。

［名称］SB01（竪穴建物跡）※要検討　［位置］外郭場外西地区 W-19,X-19
［遺構図］第６図　［図版］図版１　［検出面］第Ⅱ層
［構成遺構］S263,S266,S292,S437,S304,S419,S311,S463,S544,S472,S481,S476,S286
［所見］石列及び集石遺構の南側で検出された。長軸約 4.2m、短軸約 2.3m ～ 2.7m、柱間の長さもばらつきがあり、ややいびつな長方形を呈する。建物跡とする根拠は乏しいものの、検討を要するとして報告する。

［名称］SB02（竪穴建物跡）※要検討　［位置］外郭場外西地区 V-20,W-20
［遺構図］第６図　［図版］図版１　［検出面］第Ⅲ層　［構成遺構］S63,S61,S84,S590,S122,S118,S565,S127,S149,S146,S142,S107,S592,S71,S67,S65
［所見］SB02 は石列及び集積遺構の北側で検出された。長軸約 3.5m、短軸約 2.5m の長方形を呈する。長軸の方向は石列と大体同じ方向を指している。これは SB01 も同様であり、石列及び集石遺構をはさみ２棟の建物があったと推察した。

［名称］石列及び集石遺構　　［位置］外郭城外西地区 W-19,W-20
［遺構図］第６図　［図版］図版１　［検出面］第Ⅱ層
［所見］屋敷地６の中央に位置し、SB01 と SB02 の建物跡を区画する何らかの施設もしくは、供用スペースのような施設があったと考えられる。


X=76720
Y=42580
Y=42600
X=76720
香炉
電柱
N
Ⅲ層
礫溜り
地山
アゼ
V-20
SB02
石列遺構
アゼ
Ⅲ層
礫溜り
用地境界線
地山
アゼ
焼土
Ⅲ層？
W-19
SB01
W-20
？層
焼土
Ⅱ層
Ⅲ層
礫溜り
地山
地山
Ⅲ層
Ⅲ層
Ⅲ層
X=76690
X-19
X-20
X=76690
Y=42580
Y=42600

第 6 図　屋敷地 6 平面図

## 第 2 節　屋敷地 7（外郭 15 次調査）

屋敷地 7 は外郭西側城壁とハラクブ地区の間に形成された平坦面であり、発掘調査によって多数の柱穴が検出され、集落の一部がここまで広がっていることが分かった。北東を外郭西側城壁、南西はハラクブ地区の急斜面、北西及び南東側は岩盤が露頭する地区に囲まれた約 500㎡の平場となっている。このうち約 350㎡の発掘調査を行っている。調査前は木竹が繁茂していたがかつては畑として利用されており、地表には畝跡が残っていた。平成 22 年度の予備調査において遺物包含層が確認されており 15 次調査では遺構検出面までの掘削と遺構の確認調査が実施された。

### 1．層序

屋敷地 7 を覆う堆積層は、現代の表土・旧耕作土である第Ⅰ層、グスク時代の遺物包含層である第Ⅱ層と第Ⅲ層、地山への漸移層と考えられる第Ⅳ層からなる。第Ⅱ層を掘削するとⅢ層上面からは遺構が検出されたため、第Ⅲ層の掘削は行わず第Ⅲ層検出の遺構を精査し 15 次調査を完了した。各層の所見は以下のとおりである。

Ⅰ　層：【10YR4/4、4/6 褐色土層】現代の表土・旧耕作土。屋敷地 6 全体を覆う土層。地表面から約 30 ～ 40cm 堆積している。調査前は木竹に覆われいたが、地表面には畝跡が残っており、かつては畑として利用されていた。

Ⅱ　層：【10YR3/3、3/4 暗褐色土層】当該遺跡を形成期であるグスク時代の遺物包含層。遺跡全体を覆う。屋敷地 7 で検出される遺構のほとんどがこの時期のもので、15 世紀から 16 世紀の遺物が出土する。

Ⅲ　層：【10YR4/3 にぶい黄褐色土、10YR4/4 褐色土、10YR3/4 暗褐色土】遺物包含層。Ⅱ層からの遺構が検出される。掘削していないため詳細は不明。

Ⅳ　層：【10YR4/6 褐色土層】屋敷地 7 の一部でみられる堆積層。岩が風化した細礫を多く含み、地山漸移層とみられる。屋敷地 7 の北東側で検出された。

地山層：【10YR6/8 明黄褐色土層】無遺物の自然堆積層。風化岩が筋状に検出される。古期石灰岩が露頭する。

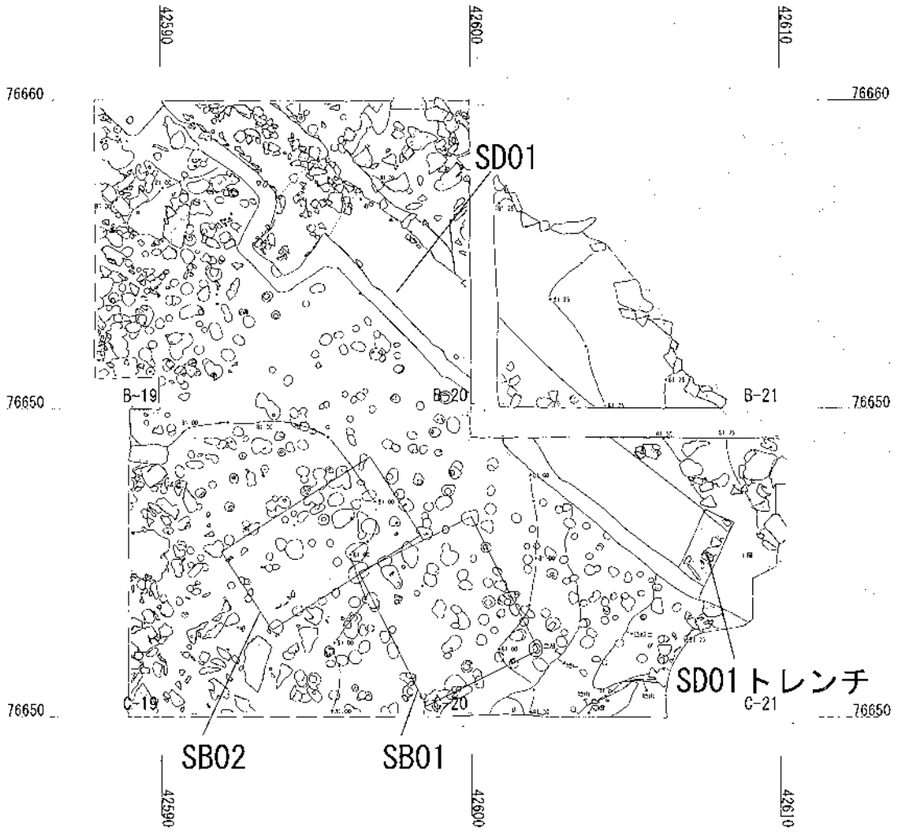
### 2．遺構

屋敷地 7 ではⅠ層を除去するとⅡ層上面において溝状遺構が検出された。これは屋敷地 7 の北東にある堀切り状遺構から続くものであった。Ⅱ層を掘削しⅢ層の上面まで達するとⅡ層に属する遺構群が検出された。また、検討の余地は残るものの、遺構プランの復元の可能があるものとして SB01 及び SB02 を報告する。屋敷地 7 の遺構総数は 146 基で内訳は以下のとおりとなる。

遺構総数　　146 基

・柱穴（SP）・・・104基、ピット状遺構・・・23基、土坑状遺構（SK）・・・2基、
　溝状遺構（SD）・・・1基、不明遺構・・・16基

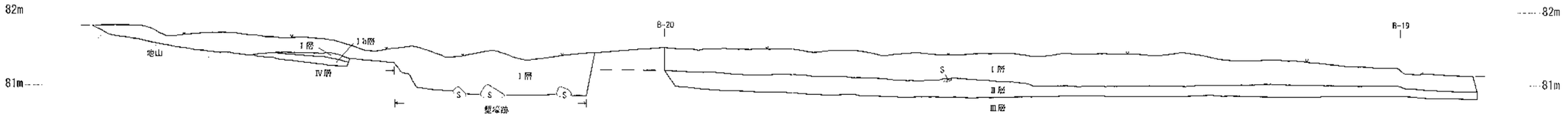
［名称］SB01（竪穴建物跡）※要検討　［位置］外郭城外西地区 C-20,C-21
［遺構図］第 8 図　［図版］図版 2、図版 3　［検出面］第Ⅲ層
［構成遺構］S2,S219,S161,S163,S226,S398,S22,S21,S31,S51,S49,S38
［所見］長軸約 4.9m、短軸約 3.9 ～ 4.1m。柱間の長さが約 170cm ～ 200cm とばらつきがあること、向かい合う柱も 5 ～ 30cm ずれることから要検討建物跡として報告する。



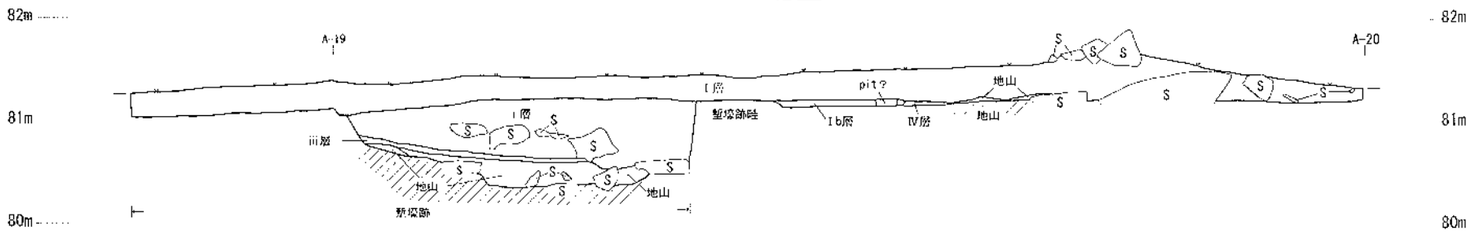

第7図　15次外郭平面図

0　(S=1/200)　10m

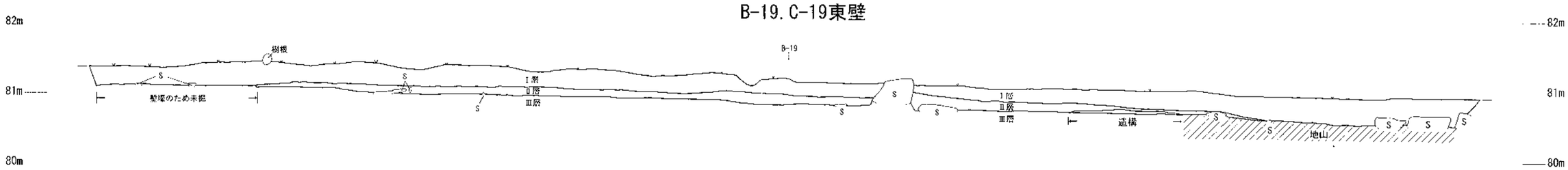
## B-21. B-20. B-19南壁



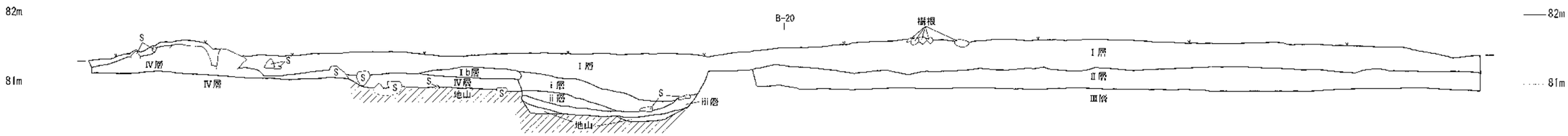

## B-19. B-20北壁



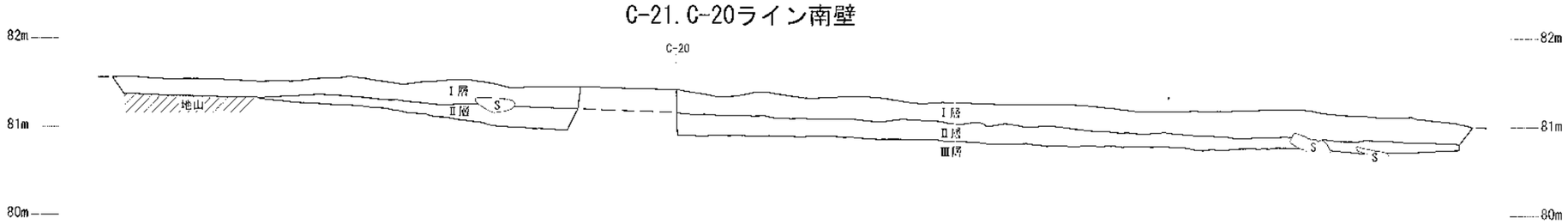

## B-19. C-19東壁

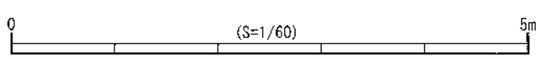



## B-20. C-20東壁

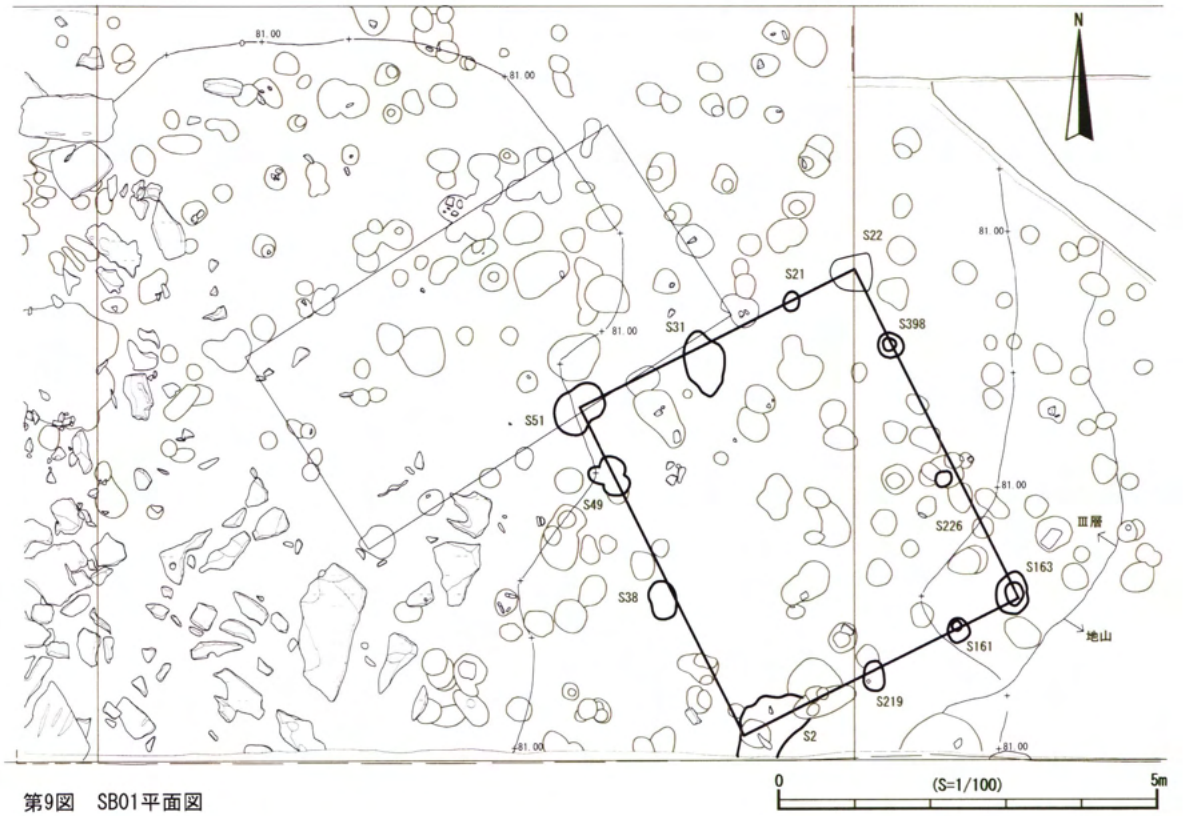



## C-21. C-20ライン南壁



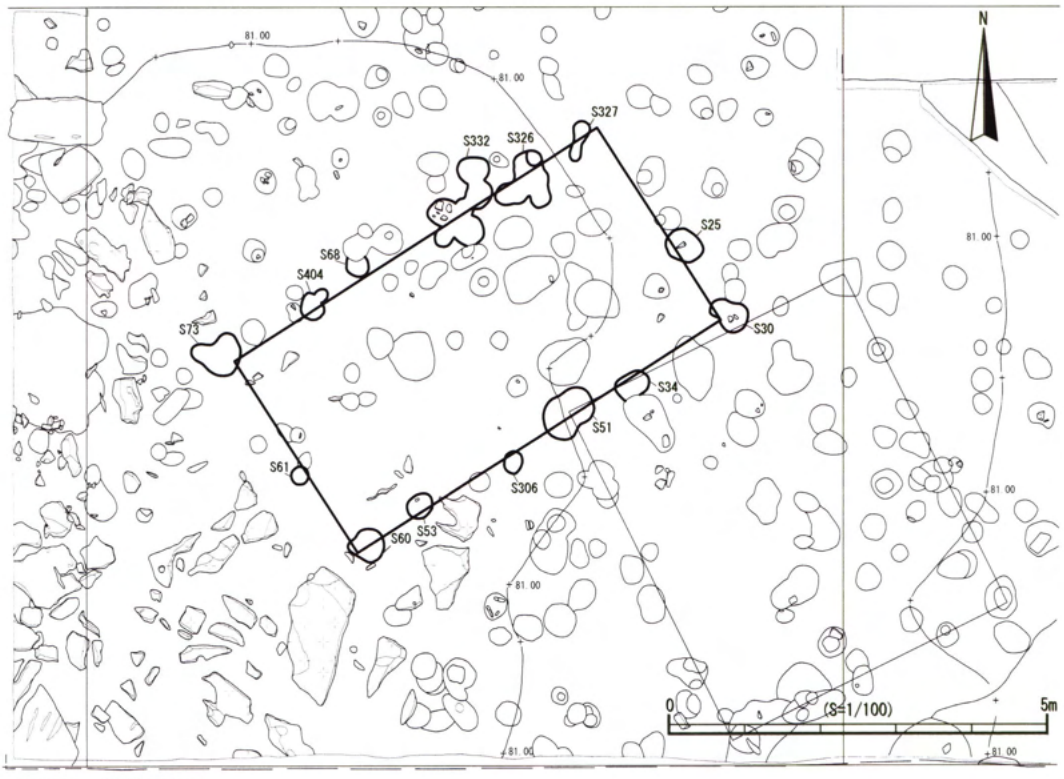




第8図　15次外郭層序

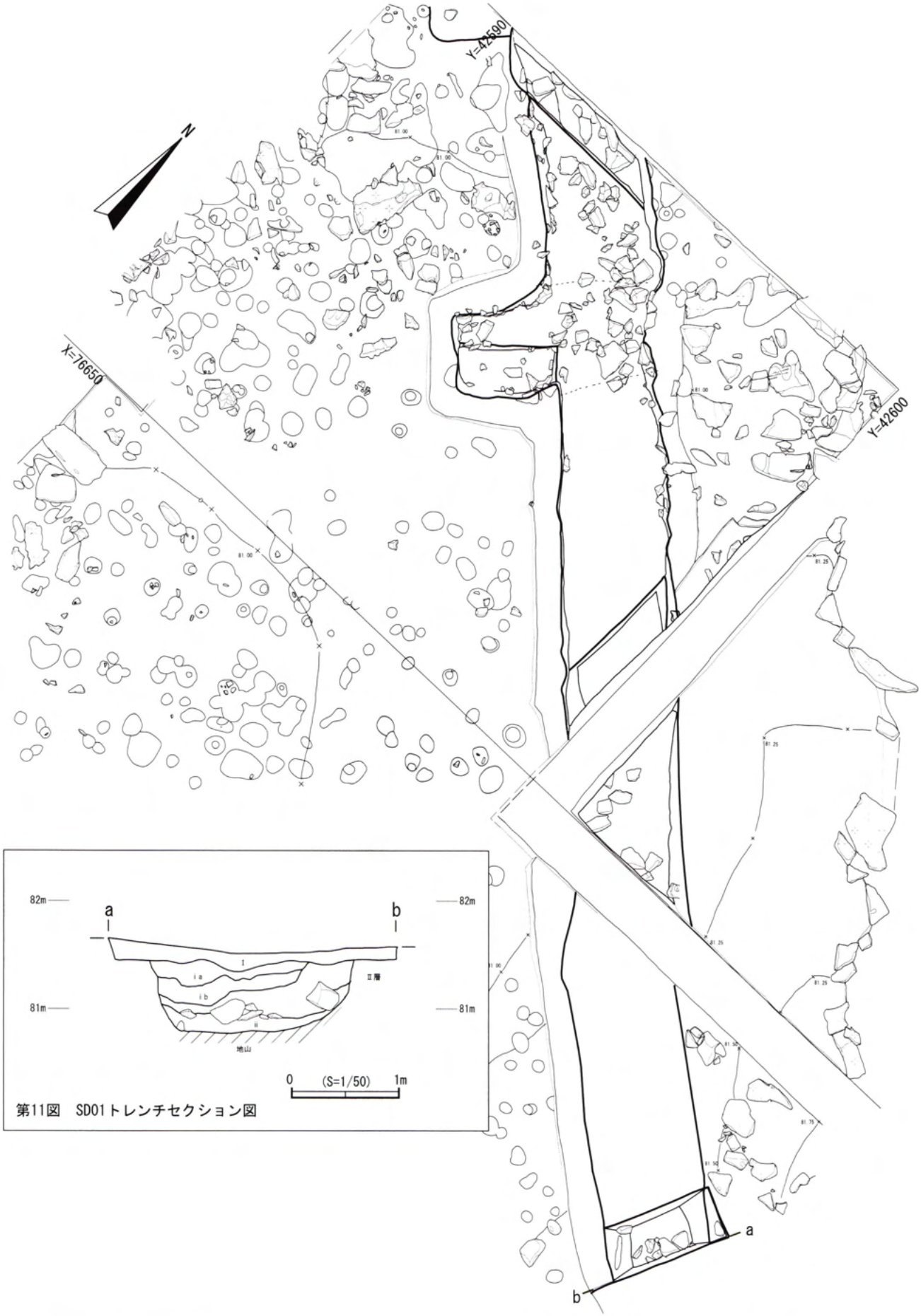



第9図　SB01平面図

［名称］SD01（塹壕）　［位置］外郭城外西地区 B-20,B-21,C-21（屋敷地 7 北東側より延長）
［遺構図］第 9 図　［図版］図版 2、図版 3　［検出面］第Ⅲ層
［構成遺構］S60,S53,S306,S34,S30,S25,S327,S326,S332,S68,S404,S73,S61
［所見］長軸約 5.7m、短軸約 3.2m となる。柱間の長さもそろわず、形状もいびつな長方形となる。要検討建物跡として報告する。




第10図　SB02平面図




第11図　SD01トレンチセクション図

第12図　屋敷地7SD01平面図

［遺構図］第10図、第11図　［図版］図版2、図版3　［検出面］第Ⅱ層　　［構成遺構］S1
［所見］SD01は第Ⅰ層を除去したⅡ層上面から検出された。屋敷地7の北東にある堀切り状遺構からの延長となっている。調査区で検出された長さは約23.5m、幅は約1.9m、検出面からの深さは約0.6～0.8mとなる。また、幅1.9～1.5m、長さ約1.9mの方形状の突出部を持つ。
［遺構内堆積土］ⅰ層は主に10YR4/6褐色土と10YR5/8黄褐色土が混ざる土層。場所によって土の混ざり方に違いがあり、B-20では30～60cm台の礫が多く混入する。ⅱ層は10YR5/6黄褐色土層。ⅰ層に比べ土の混ざりが薄いため分層している。ⅲ層は10YR4/6褐色土。B-20でのみ検出された固くしまった土層である。

### 3．屋敷地7出土遺物

［Ⅰ層出土遺物］

**1. 土器**（第12図-1・2）1は平底の壺、2は平底の鍋とみられる資料。

**2. カムィヤキ**（第12図-3～6）3～5は壺の口縁部、6は鉢型とみられる。

**3. 青磁**（第12図-7～13図-58）7～9は龍泉窯系Ⅰ類の資料で、内面に劃花文を施す。10は同Ⅱ類の口縁部資料で鎬蓮弁文碗。11は同Ⅲ類の底部。12～15は同Ⅶ類の碗で細蓮弁文を施す。16～21は同Ⅴ類、16・17は底部資料。18・19は雷文帯の口縁部、20・21は無文外反碗の口縁部資料。22～24は同Ⅵ類無文直口碗の口縁部、25・26は粗製の碗。27は梅瓶の口縁部とみられるが詳細は不明。28・29は龍泉窯系Ⅴ類皿の口縁部。31は同安窯系Ⅰ類の碗で30・32～34は同Ⅰ類の皿の口縁部資料。35～48は皿で35～37は龍泉窯系Ⅲ類、40～46は同Ⅴ類の資料。47・48はⅣもしくはⅤ類の腰折れ外反皿。49～52は盤の口縁部資料で、49は鍔縁稜花、残りは鍔縁となる。53は同底部資料。54は青磁合子の蓋とみられる資料。55は八角杯の口縁部。56・57は龍泉窯系Ⅰ類碗の口縁部資料で鎬蓮弁文が施される。

**4. 白磁**（第14図-59～67）59はA群の底部資料。60はC1群口縁部資料、61がC2群口縁部、62はC3群無文外反碗の口縁部資料となる。63はD群皿の口縁部、64は同皿の底部で抉り入り高台となる。65はF群今帰仁タイプ碗の底部資料。66はE群皿の底部で、見込みは蛇の目釉掻きされる。67は白磁壺とみられる口縁部の小破片。

**5. 青花**（第14図-68～79）68は今帰仁城跡主郭分類Ⅱ類（小野分類B群）碗の底部資料。69は同Ⅲ類碗の口縁部資料。70は同Ⅴ類の底部で、71は口縁部で波濤文を施す。72・73は同Ⅰ類の皿で、72の外面は唐草文を施す。74は瓶の口縁部資料。75・76は同Ⅱ類皿で碁笥底の底部資料。77は碗の口縁部資料で波濤文を施す。78は皿の完形資料だが外面に唐草文を施す。79は同Ⅱ類の碗で内外面に密な牡丹唐草文を施す口縁部資料。

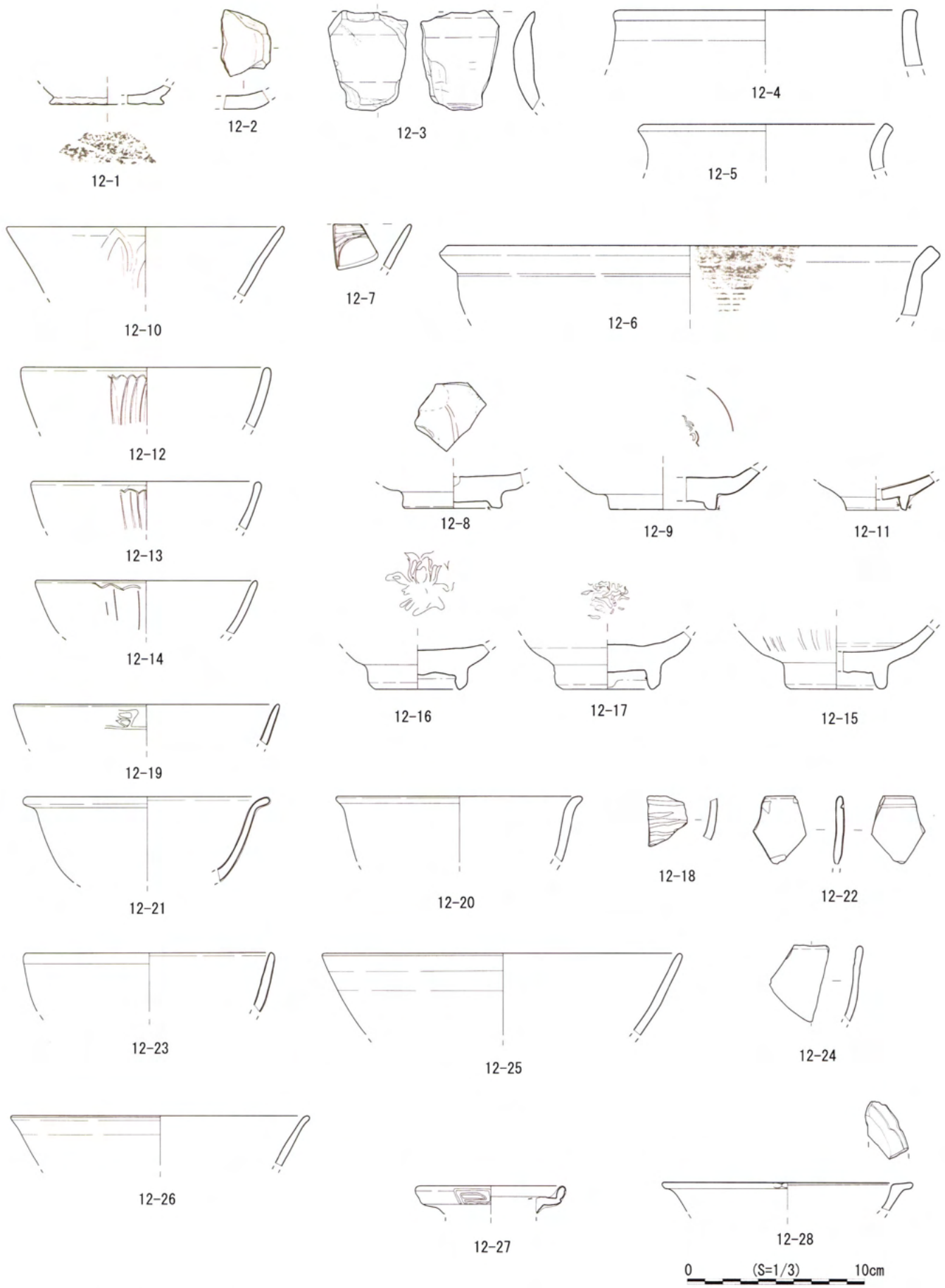
**6. 褐釉陶器**（第14図-80～88、第15図-89～91）80は褐釉陶器の大型壺口縁部で方形口縁となる。81～83で褐釉陶器壺の底部資料。84は褐釉陶器胴部片を加工した円盤状製品である。85・86は中・小型の褐釉陶器壺の口縁部。87は黒釉陶器碗の底部資料。88は黒釉陶器とみられるが器種は不明。194は黒釉陶器小壺の口縁部資料。89・90はタイ産の褐釉陶器、89は底部で90が口縁部資料となる。91はタイ産の半錬土器の蓋。

**7. 沖縄産陶器**（第15図-92～98）92～98は沖縄産陶器資料。93は小型瓶の口縁部、92・95は碗の口縁部。97・98は白化粧の小碗。94は急須の足部分。

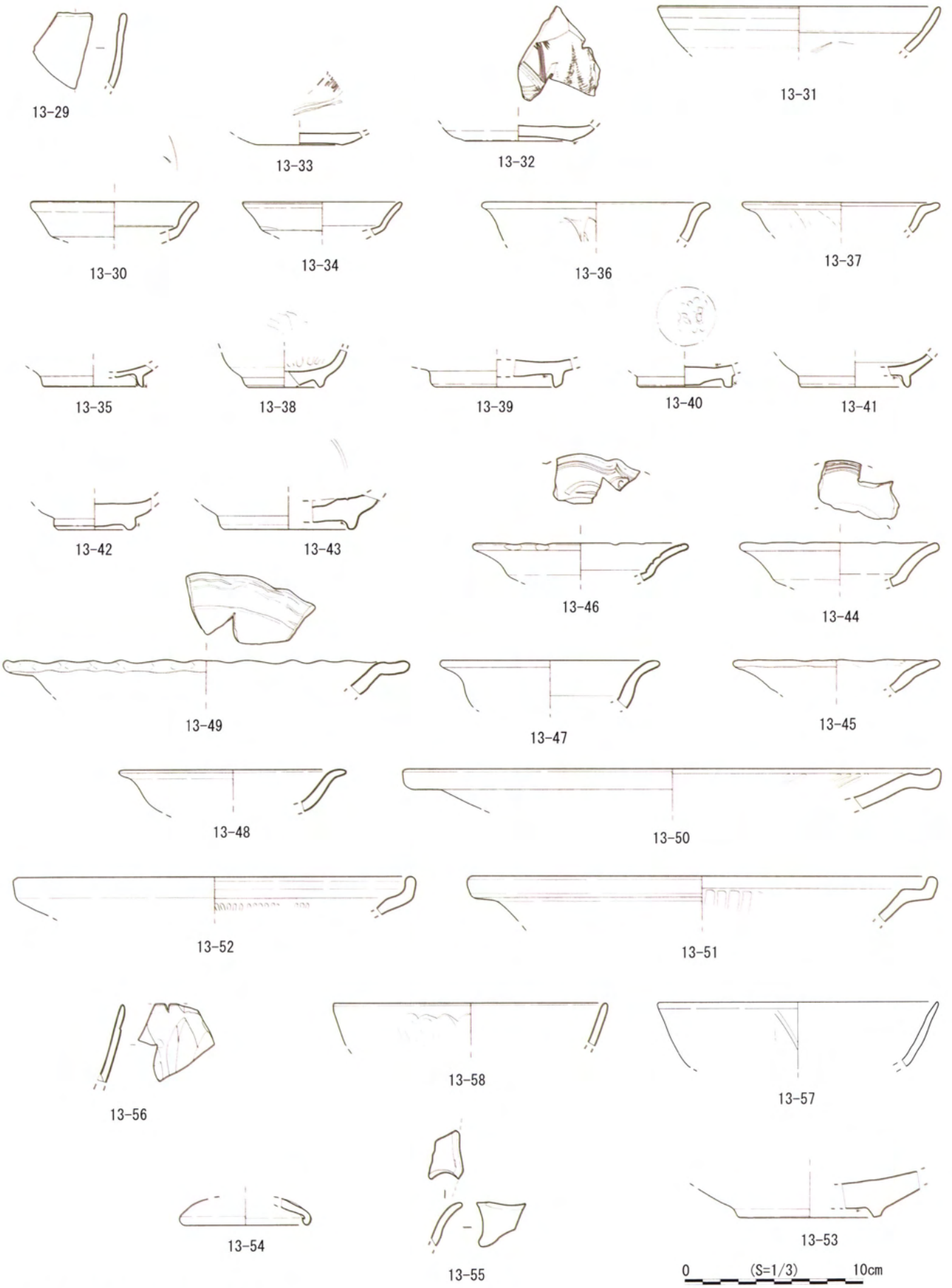
**8. 銭貨**（第15図-99・100）99は文字がつぶれ銭種不明の古銭、100は寛永通宝。

**9. 金属製品**（第15図-101）101は鉄製の釘。

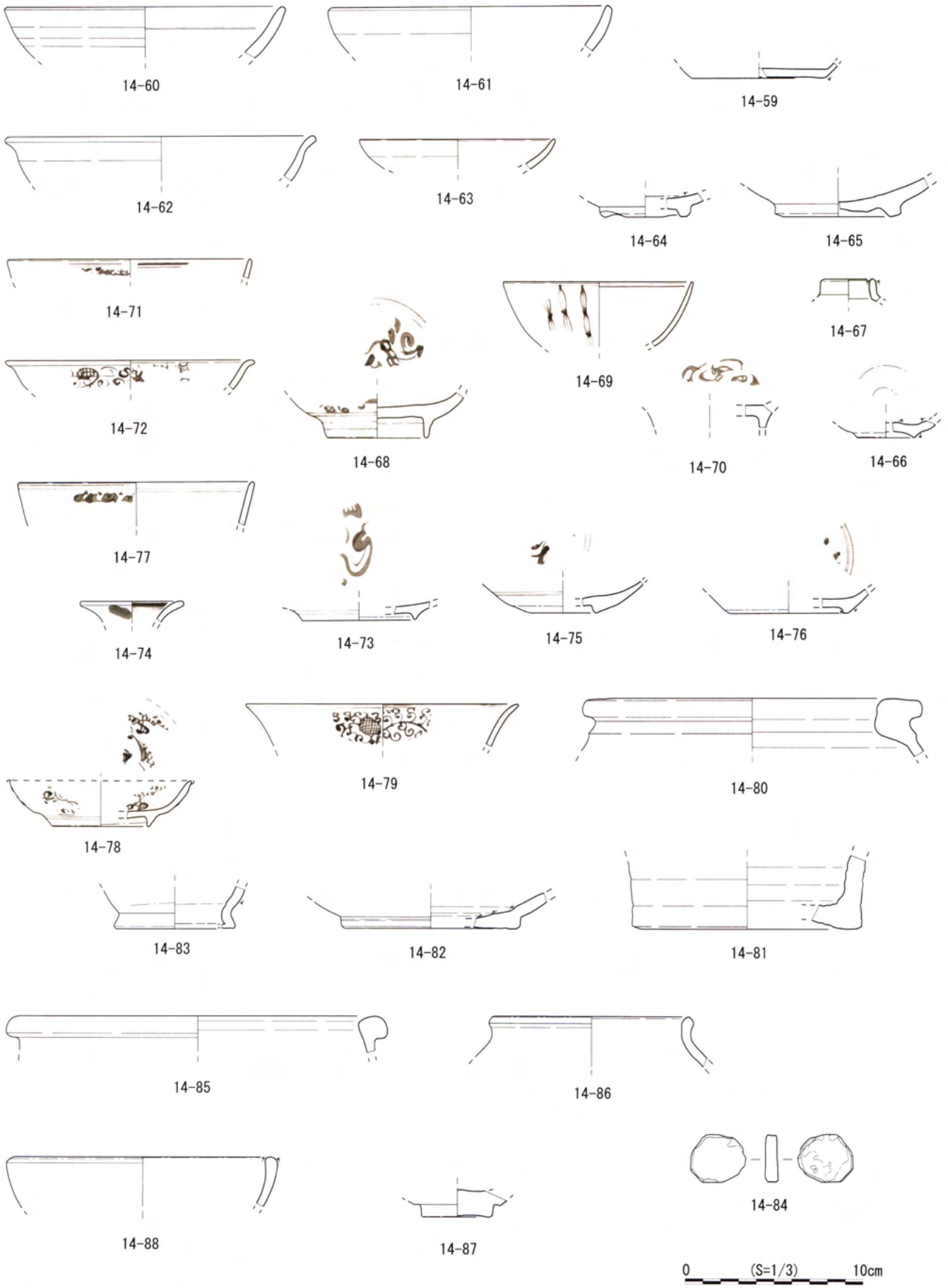
**10. 石製品**（第15図-102）102は両刃の石斧とみられるが刃部はつぶれており、表面は風化している。




第 13 図　屋敷地 7 第 I 層出土遺物①




第 14 図　屋敷地 7 第 I 層出土遺物②




第 15 図　屋敷地 7 第 I 層出土遺物③

［SD01 出土遺物］（第 15 図 -103 ～ 109）

103 は青磁碗の底部資料、104 は龍泉窯系Ⅵ類碗の口縁部資料で、細蓮弁文を施す。105 は小杯の口縁部。106 は白磁 C1 群碗の口縁部資料。107 は底部資料。108 は褐釉陶器大型壺の口縁部、109 はタイ産褐釉陶器の底部資料である。

［Ⅱ層・遺構出土遺物］

**1. カムィヤキ**（第 15 図 -110・111）110 は壺の底部資料。111 は S333 より出土した底部資料で器色は褐色を呈する。

**2. 青磁**（第 16 図 -112 ～第 17 図 160）112 は蓮弁文を施す龍泉窯系Ⅴ類碗の口縁部資料。113 は同Ⅳ類の碗で口縁部は外反し弦文帯を施す。114・115 は盤の底部資料で、114 の内面は箆彫りの蓮弁文を施す。116 ～ 132 は皿で 117 は同Ⅴ類の腰折れ皿の底部資料、118・119 は同Ⅲ類口折皿の口縁及び底部で、外面に蓮弁文を施す。120 ～ 130 は同Ⅴ類の皿。120 は無文の腰折皿、121 ～ 124 は稜花腰折皿。125 ～ 127・129・130 は直口口縁の皿で 127 は蓮弁文を施す。131・132 は同安窯系Ⅰ類の口縁と底部で、132 の内底に櫛描の文様がわずかにみられる。133 ～ 145 は碗資料で 133 ～ 135 は同Ⅱ類の碗口縁部。133 は外面に蓮弁文を施す。136 ～ 138 は同Ⅳ類の碗口縁部でいずれも無文直口口縁となる。第 17 図 139・140 は同ⅣもしくはⅤ類の無文外反碗。141 は同Ⅴ類、雷文帯の施す碗口縁部。142 ～ 145 は同Ⅵ類の碗口縁部で細蓮弁文を施す。146 は香炉の口縁部。147 は方瓶の底部資料で外面には雷文帯を施す。148 は酒会壺の口縁部資料。149 ～ 152 は同Ⅶ類とみられる碗の口縁部資料で外面に細蓮弁文を施す。153 は無文外反碗の口縁部資料。154 は同Ⅴ類無文の腰折皿。155 は同Ⅵ類の稜花腰折皿。156 は同Ⅴ類の皿で、口縁は直口し蓮弁文を施す。157 は小碗の底部資料。158 ～ 160 は同Ⅵ類の碗で 158 は外面に蓮弁文を施す。192 は内面に箆彫りの蓮弁を施す盤の口縁部資料。

**3. 白磁**（第 18 図 -161 ～ 167・169）161・162 は A 群のいわゆる口禿の資料で、161 が皿、162 が碗の口縁部となる。163 ～ 167・193 は D 群の資料で、163・164・166・193 が皿、165・167 は杯である。169 は脚部資料である。

**4. 翡翠釉**（第 18 図 -170）170 は皿の口縁部とみられる。

**5. 青花**（第 18 図 -171 ～ 176）171 は今帰仁城跡主郭分類Ⅰ類の皿底部で見込みに玉取獅子を描く。172 は同Ⅳ類の外反碗で外面は唐草文か。173 は小杯の底部資料。174 は同Ⅱ類の外反碗で外面に唐草文を施す。175 は小壺の口縁部資料。176 は皿の底部資料か。

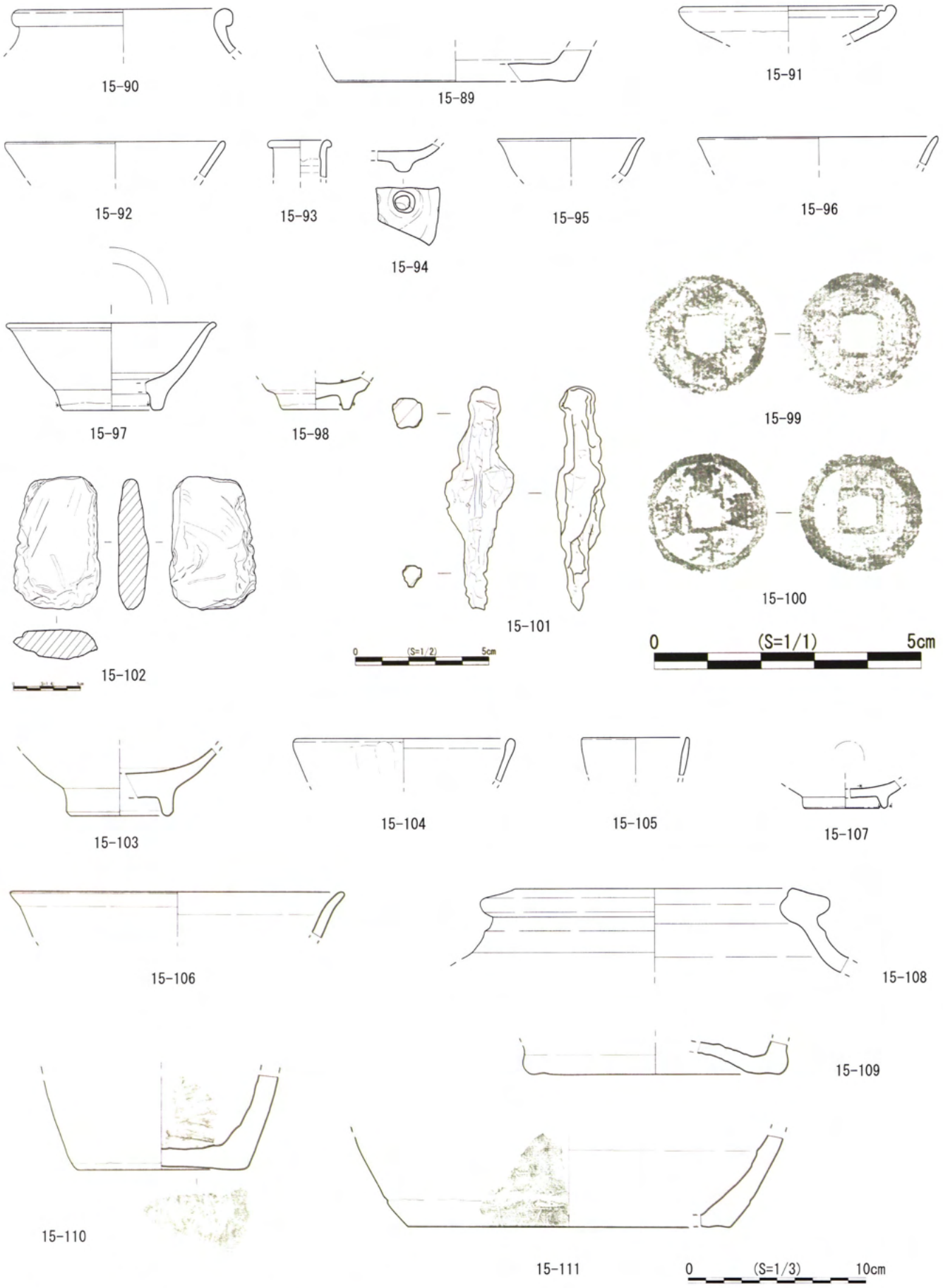
**6. 褐釉陶器**（第 18 図 -177 ～ 184）177 は方形口縁の大型壺。178 は大型壺の底部資料。179 は胴部片を加工した円盤状製品。180 ～ 184 は中・小型の壺の資料。

**7. 半錬土器**（第 18 図 -185）185 はタイ産の半錬土器の蓋。

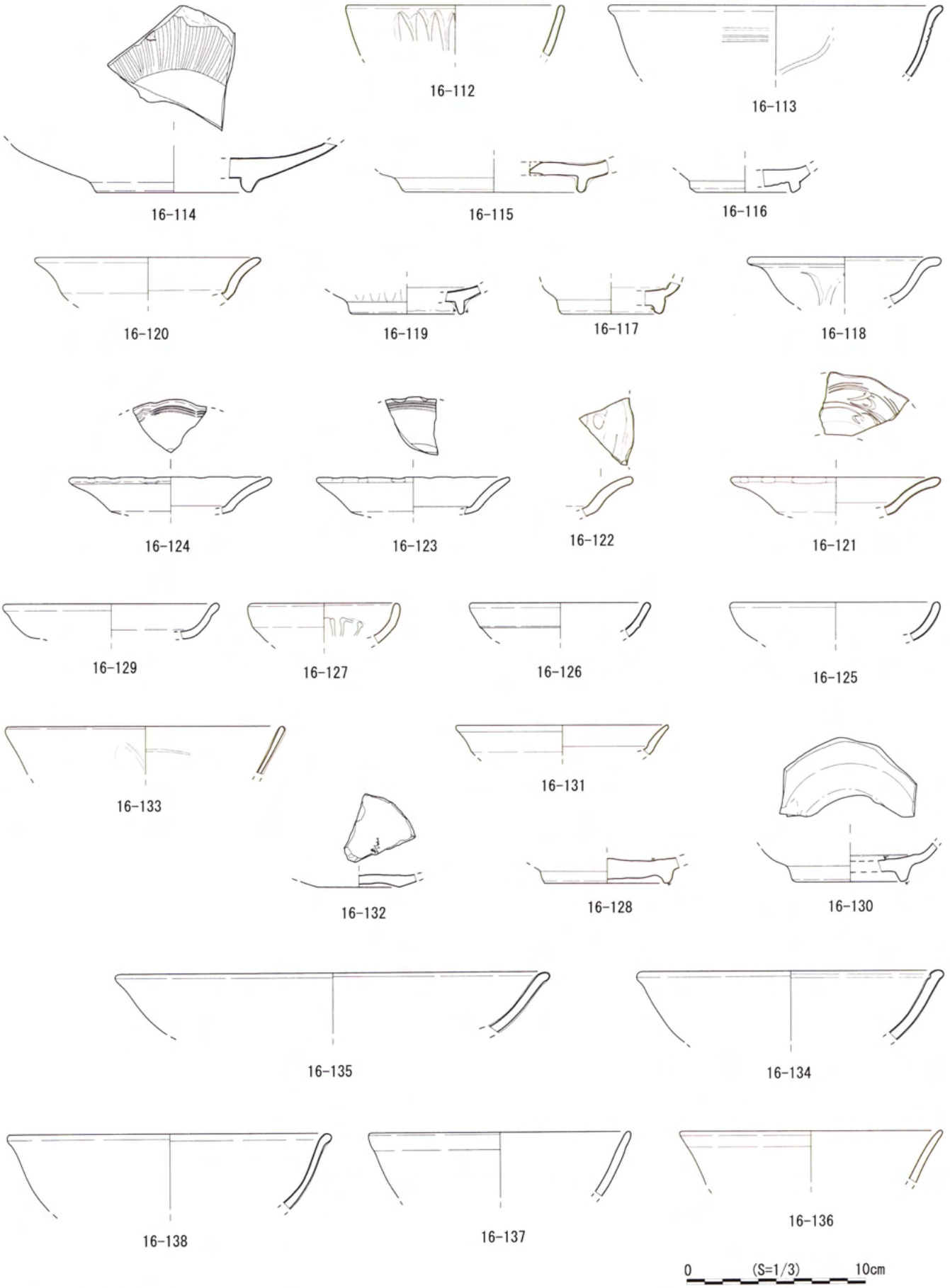
**8. 銭貨**（第 19 図 -186・187）186 は元豊通寶（北宋・1078 年）、187 は大成通寶（琉球・1454 年）。

**9. 金属製品**（第 19 図 -188 ～ 190）188・189 は青銅製の装飾品。

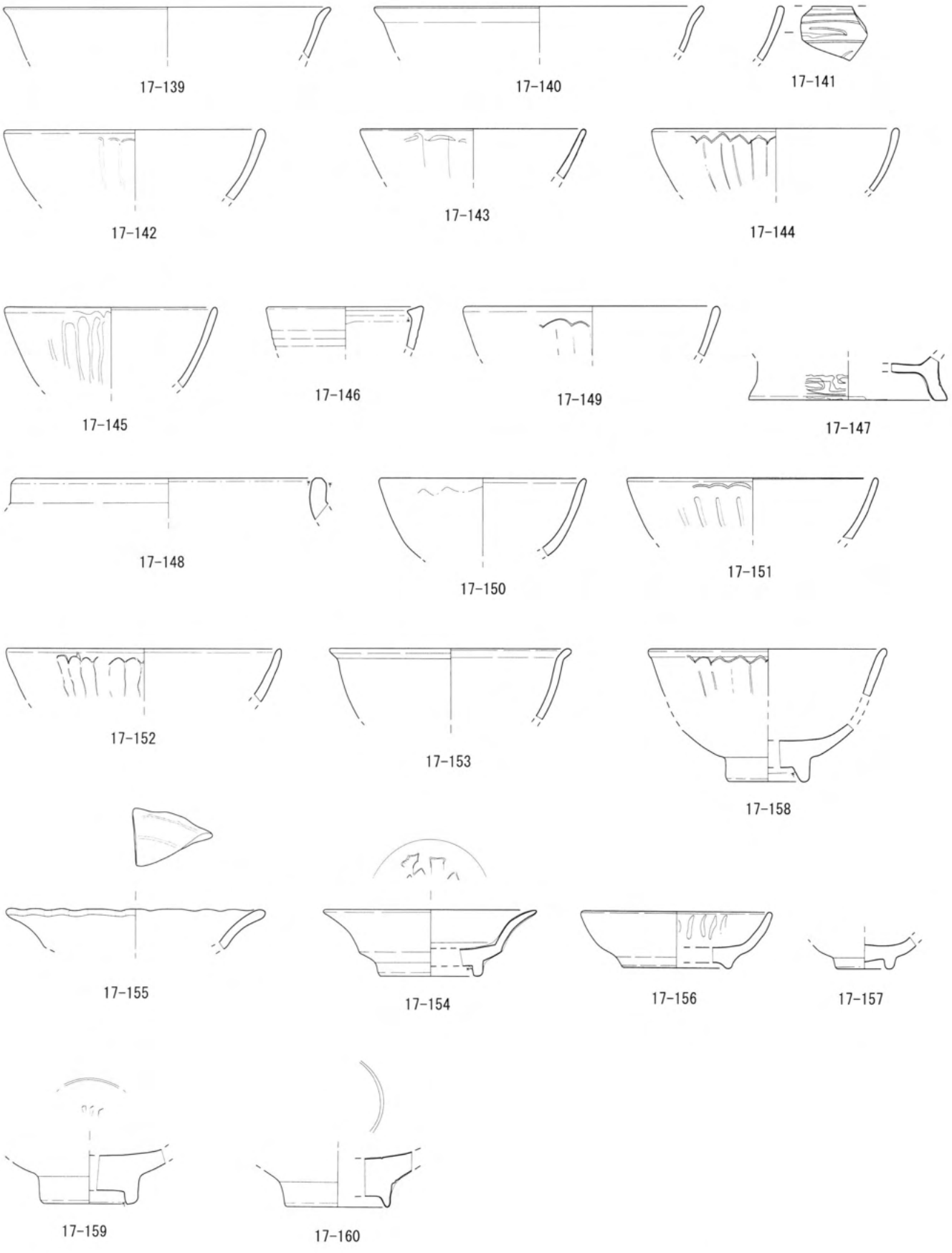
**10. 石製品**（第 19 図 -191）191 は砥石。



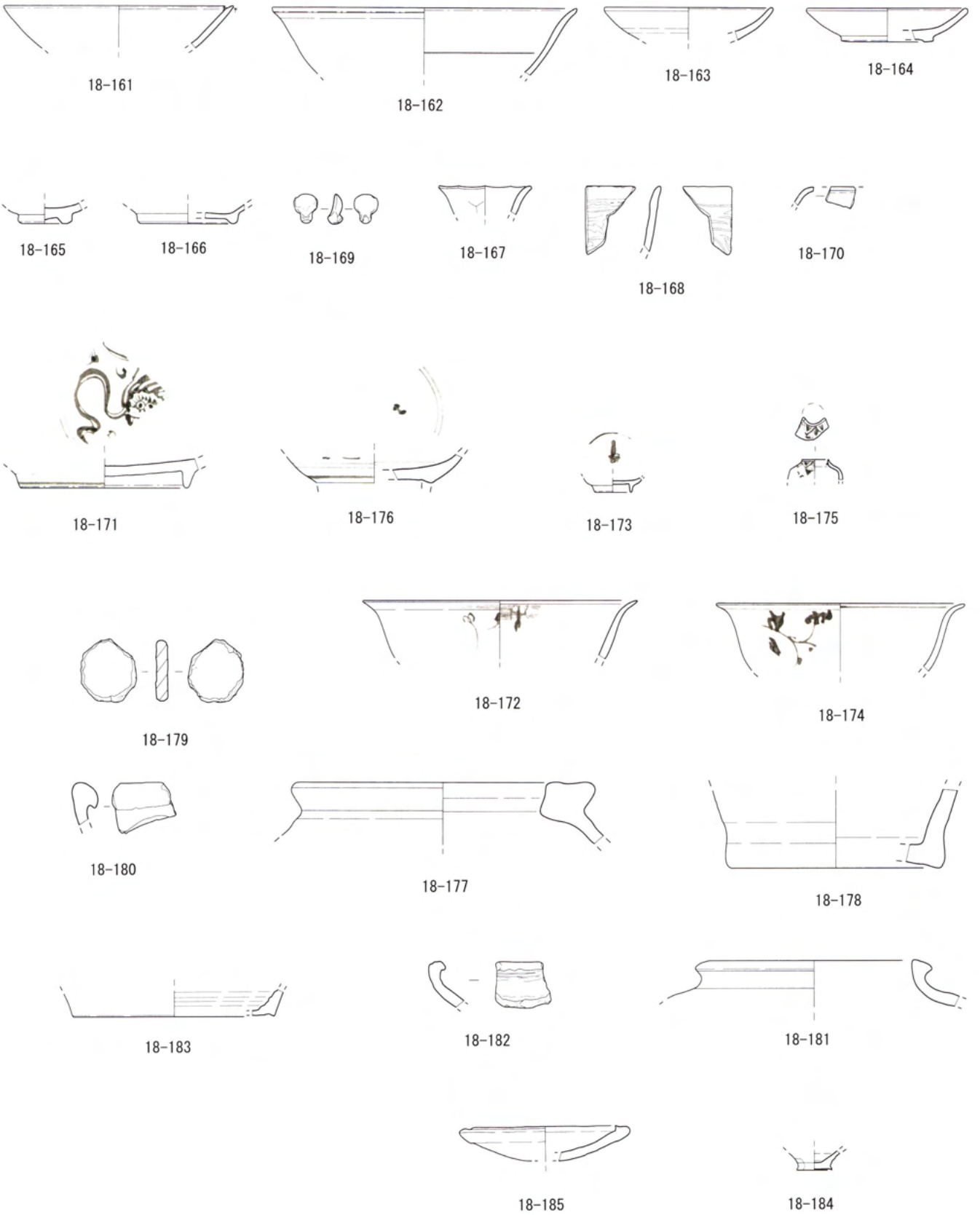

第16図　屋敷地7第Ⅰ層，SD01，第Ⅱ層　出土遺物




第 17 図　屋敷地 7 第Ⅱ層出土遺物①




第 18 図　屋敷地 7 第Ⅱ層出土遺物②




第 19 図　屋敷地 7 第Ⅱ層出土遺物③

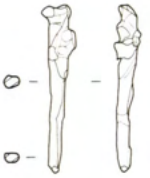
19-186

19-187

0 (S=1/1) 5cm

19-188

19-189



19-190

0 (S=1/2) 5cm

19-191

19-192

19-193

19-194

0 (S=1/3) 10cm

第 20 図　屋敷地 7 第Ⅱ層出土遺物④

## 第２表　屋敷地７遺物観察表

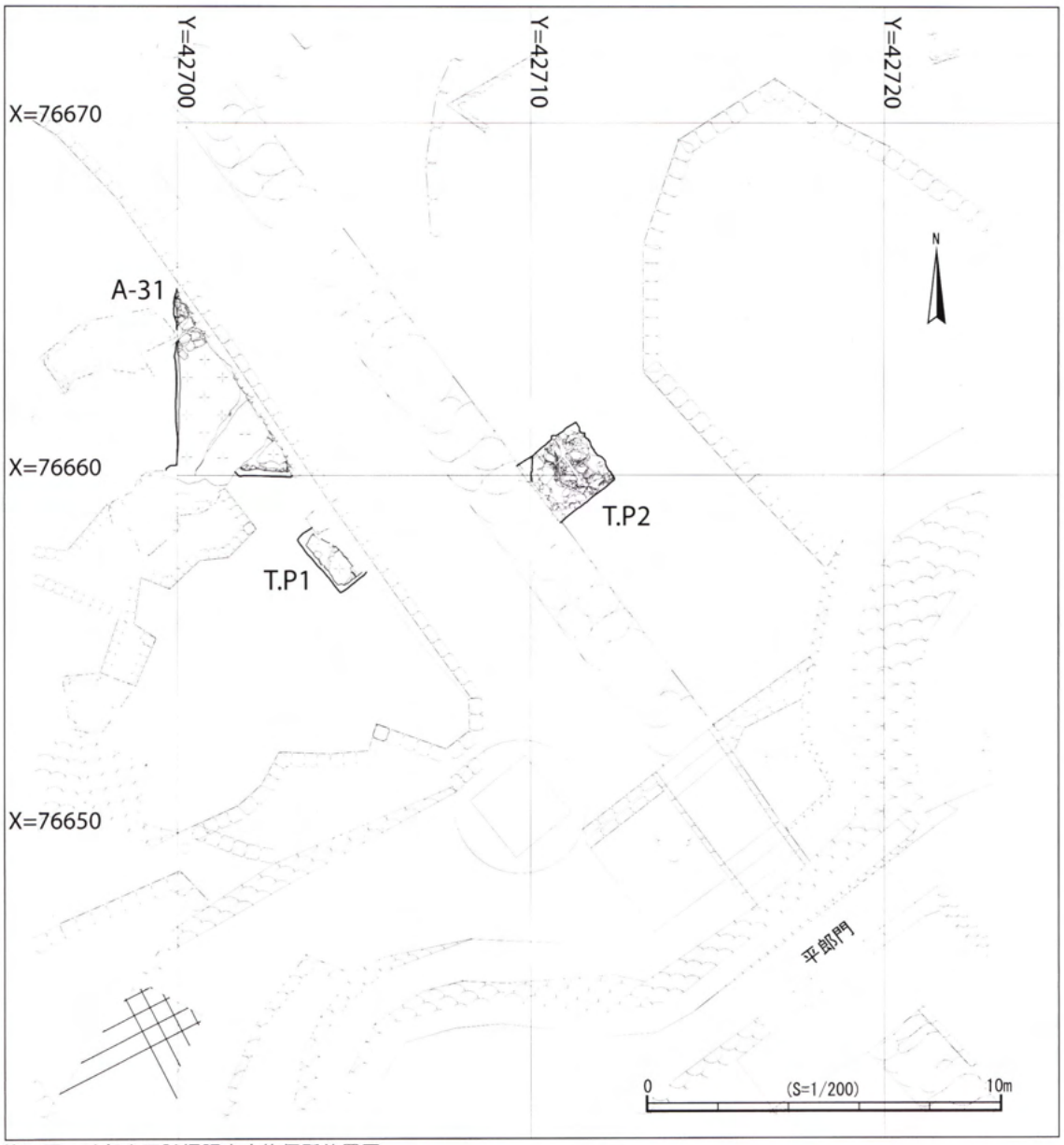
| | | | | | | 計測値（cm ※ ,g）※玉は mm | | | 遺跡名 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図番号 | 種別 | 分類 | 器種 | 部位 | 文様等 | 器：口径<br>他：外径<br>銭：外径<br>単位＝cm<br>（銭以下mm） | 器高<br>厚さ<br>銭厚<br>単位＝cm<br>（銭以下=mm） | 器：底径<br>重量<br>（単位＝g） | 次 | トレンチ | グリッド | 層 | 遺構 | dot | No. | 備考 |
| 12-1 | グスク土器 | | 壺 | 底部 | | － | － | 6.5 | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 238 | |
| 12-2 | グスク土器 | | 鍋 | 底部 | | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 223 | |
| 12-3 | カムイヤキ | | 壺 | 口縁 | | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 119 | |
| 12-4 | カムイヤキ | | | 口縁 | | 16.6 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－19 | I | | | 337 | |
| 12-5 | カムイヤキ | | 壺 | 口縁 | | 13.7 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 28 | |
| 12-6 | カムイヤキ | | 鉢 | 口縁 | | 27.1 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 289 | |
| 12-7 | 青磁 | Ⅰ類 | 碗 | 口縁 | 劃花文 | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 282 | |
| 12-8 | 青磁 | Ⅰ類 | 碗 | 底部 | 劃花文 | － | － | 5.4 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 14 | |
| 12-9 | 青磁 | Ⅰ類 | 碗 | 底部 | 劃花文 | － | － | 6 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 58 | |
| 12-10 | 青磁 | Ⅱ類 | 碗 | 口縁 | 鎬連弁文 | 15.5 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 28 | |
| 12-11 | 青磁 | Ⅲ類 | 碗 | 底部 | 砧系連弁文 | － | － | 3.9 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 30 | |
| 12-12 | 青磁 | Ⅶ類 | 碗 | 口縁 | 細連弁文 | 13.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 136 | |
| 12-13 | 青磁 | Ⅶ類 | 碗 | 口縁 | 細連弁文 | 12.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 28 | |
| 12-14 | 青磁 | Ⅶ類 | 碗 | 口縁 | 細連弁文 | 12.5 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－19 | I | | | 7 | |
| 12-15 | 青磁 | Ⅶ類 | 碗 | 底部 | 細連弁文 | 5.1 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－19 | I | | | 19 | |
| 12-16 | 青磁 | Ⅴ類 | 碗 | 底部 | | 4.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 68 | |
| 12-17 | 青磁 | Ⅴ類 | 碗 | 底部 | | 5.2 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 75 | 15今外ヤシキ7C-21 I№85 |
| 12-18 | 青磁 | Ⅴ類 | 碗 | 口縁 | 雷文帯 | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 289 | |
| 12-19 | 青磁 | Ⅴ類 | 碗 | 口縁 | 雷文帯 | 14.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 2 | |
| 12-20 | 青磁 | Ⅳ or Ⅴ類 | 碗 | 口縁 | 無文外反 | 13.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 223 | |
| 12-21 | 青磁 | Ⅳ or Ⅴ類 | 碗 | 口縁 | 無文外反 | 13.7 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 43 | |
| 12-22 | 青磁 | Ⅵ類 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 58 | |
| 12-23 | 青磁 | Ⅵ類 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | 13.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 44 | |
| 12-24 | 青磁 | Ⅵ類 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 22 | |
| 12-25 | 青磁 | 粗製碗 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | 20 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 62 | |
| 12-26 | 青磁 | 粗製碗 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | 16.6 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 22 | |
| 12-27 | 青磁 | 梅瓶 | 瓶 | 口縁 | | 8.1 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 128 | |
| 12-28 | 青磁 | | 皿 | 口縁 | 口折稜花 | 14.1 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 36 | |
| 13-29 | 青磁 | Ⅴ類 | 皿 | 口縁 | 口折 | 11.1 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 105 | 15今外ヤシキ7B-20 I№5 |
| 13-30 | 青磁 | 同安窯系Ⅰ類 | 皿 | 完形 | 櫛描文 | 8.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 88 | |
| 13-31 | 青磁 | 同安窯系Ⅰ類 | 碗 | 口縁 | 櫛描文 | 15.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 53 | |
| 13-32 | 青磁 | 同安窯系Ⅰ類 | 皿 | 底部 | 櫛描文 | － | － | 5.5 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 36 | 15今外ヤシキ7B-20 I№19 |
| 13-33 | 青磁 | 同安窯系Ⅰ類 | 皿 | 底部 | 櫛描文 | － | － | 4.8 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 78 | |
| 13-34 | 青磁 | 同安窯系Ⅰ類 | 皿 | 完形 | 無文 | 8.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 6 | |
| 13-35 | 青磁 | Ⅲ類 | 皿 | 底部 | 口折 | － | － | 5.6 | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 69 | |
| 13-36 | 青磁 | Ⅲ類 | 皿 | 口縁 | 口折 | 12.5 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 280 | |
| 13-37 | 青磁 | Ⅲ類 | 皿 | 口縁 | 口折 | 10.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 3 | |
| 13-38 | 青磁 | | 皿 | 底部 | 直口口縁連弁文 | － | － | 4 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 22 | |
| 13-39 | 青磁 | | 皿 | 底部 | | － | － | 6.8 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 5 | |
| 13-40 | 青磁 | Ⅴ類 | 皿 | 底部 | | － | － | 5.1 | 15 | ヤシキ７ | B－19 | I | | | 337 | |
| 13-41 | 青磁 | Ⅴ類 | 皿 | 底部 | | － | － | 6 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 3 | |
| 13-42 | 青磁 | Ⅴ類 | 皿 | 底部 | | － | － | 4.2 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 6 | |
| 13-43 | 青磁 | Ⅴ類 | 皿 | 底部 | | － | － | 7.25 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 62 | 15今外ヤシキ7C-20 I№36 |
| 13-44 | 青磁 | Ⅴ類 | 皿 | 口縁 | 腰折稜花 | 10.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 44 | |
| 13-45 | 青磁 | Ⅴ類 | 皿 | 口縁 | 腰折稜花 | 11.2 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 223 | |
| 13-46 | 青磁 | Ⅴ類 | 皿 | 口縁 | 腰折稜花 | 11.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 218 | |
| 13-47 | 青磁 | Ⅳ・Ⅴ | 皿 | 口縁 | 腰折外反 | 12 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 223 | |
| 13-48 | 青磁 | Ⅳ・Ⅴ | 皿 | 口縁 | 腰折外反 | 12.4 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 19 | |
| 13-49 | 青磁 | | 盤 | 口縁 | 鍔縁稜花 | 22.4 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 119 | 15今外ヤシキ7C-20 I№36<br>15今外ヤシキ7C-20 I№268 |
| 13-50 | 青磁 | | 盤 | 口縁 | 鍔縁 | 30.5 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 119 | 15今外ヤシキ7C-20 I№128<br>15今外ヤシキ7C-20 I№88<br>15今外ヤシキ7C-21 II№236 |
| 13-51 | 青磁 | | 盤 | 口縁 | 鍔縁 | 26 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 66 | |
| 13-52 | 青磁 | | 盤 | 口縁 | 鍔縁 | 22 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 13 | 15今外ヤシキ7C-21 II№283<br>15今外ヤシキ7B-24 |
| 13-53 | 青磁 | | 盤 | 底部 | | － | － | 7.9 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 297 | 15今外ヤシキ7C-20 I№268 |
| 13-54 | 青磁 | | | 蓋 | | 6.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 58 | |
| 13-55 | 青磁 | | 杯 | 口縁 | 八角杯 | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 53 | |
| 13-56 | 青磁 | Ⅰ類 | 碗 | 口縁 | 鎬連弁文 | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 136 | 15今外ヤシキ7C-20 II№102 |
| 13-57 | 青磁 | Ⅰ類 | 碗 | 口縁 | 鎬連弁文 | 15.6 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 270 | |
| 13-58 | 青磁 | Ⅵ類 | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 13.4 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－19 | 表採 | | | 349 | 15今外ヤシキ7B-19 II№354 |
| 14-59 | 白磁 | A群 | 皿 | 口縁 | 口禿げ | － | － | 7.5 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 22 | 15今外ヤシキ7C-20 I№36 |
| 14-60 | 白磁 | C１ | 碗 | 口縁 | ピロースクタイプ | 15.4 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 2 | 15今外ヤシキ7B-20 I№3 |
| 14-61 | 白磁 | C２ | 碗 | 口縁 | ピロースクタイプ | 15.5 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 2 | |
| 14-62 | 白磁 | C３ | 碗 | 口縁 | ピロースクタイプ（無文外反） | 17.2 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－19 | I | | | 7 | |
| 14-63 | 白磁 | D | 皿 | 口縁 | | 10.9 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－21 | I | | | 52 | |
| 14-64 | 白磁 | D | 皿 | 底部 | 抉り高台 | － | － | 4.8 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 14 | |
| 14-65 | 白磁 | F | 碗 | 底部 | 今帰仁タイプ | － | － | 5.9 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 44 | |
| 14-66 | 白磁 | E | 小皿 | 底部 | | － | － | 3.2 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 64 | |
| 14-67 | 白磁 | | 壺 | 口縁 | | 2.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 88 | |
| 14-68 | 青花 | Ⅱ類 | 碗 | 底部 | | － | － | 5.5 | 15 | ヤシキ７ | C－19 | I | | | 7 | |
| 14-69 | 青花 | Ⅲ類 | 碗 | 口縁 | | 10.6 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－19 | I | | | 337 | 15今外ヤシキ7B-20 I№3<br>15今外ヤシキ7B-20 I№13<br>15今外ヤシキ7B-20 I№76 |
| 14-70 | 青花 | Ⅴ類 | 碗 | 底部 | | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 71 | 15今外ヤシキ7B-20 I№17<br>15今外ヤシキ7B-20 I№19 |
| 14-71 | 青花 | Ⅴ類 | 碗 | 口縁 | | 13.6 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 72 | |
| 14-72 | 青花 | Ⅰ類 | 皿 | 口縁 | | 13.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 192 | |
| 14-73 | 青花 | Ⅰ類 | 皿 | 底部 | | － | － | 6.35 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 136 | 15今外ヤシキ7C-20 I№36 |
| 14-74 | 青花 | | 瓶 | 口縁 | | 5.75 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－19 | I | | | 313 | |
| 14-75 | 青花 | Ⅱ類 | 皿 | 底部 | | － | － | 3.75 | 15 | ヤシキ７ | C－19 | I | | | 456 | |
| 14-76 | 青花 | Ⅱ類 | 皿 | 底部 | | － | － | 6.65 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 28 | |
| 14-77 | 青花 | Ⅲ or Ⅴ | 碗 | 口縁 | | 13.2 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－19 | I | | | 327 | 15今外ヤシキ7B-20 I№14 |
| 14-78 | 青花 | | | 完形 | | － | － | 5.5 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 297 | 15今外ヤシキ7B-20 I№19 |
| 14-79 | 青花 | Ⅱ類 | | 口縁 | | 15.2 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 223 | |
| 14-80 | 褐釉 | Ⅴ類 | | 口縁 | | 16 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 44 | 15今外ヤシキ7C-21 I№68 |
| 14-81 | 褐釉 | Ⅴ類 | | 底部 | | － | － | 12.8 | 15 | ヤシキ７ | C－21 | I | | | 280 | |
| 14-82 | 褐釉 | | | 底部 | | － | － | 9.6 | 15 | ヤシキ７ | B－19 | I | | | 341 | |
| 14-83 | 褐釉 | | | 底部 | | － | － | 6.6 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 58 | |
| 14-84 | 褐釉 | | 円盤状製品 | | | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 44 | |
| 14-85 | 褐釉 | | 壺 | 口縁 | | 20.2 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 44 | |
| 14-86 | 褐釉 | | 小壺 | 口縁 | | 11 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－19 | I | | | 313 | |
| 14-87 | 黒釉 | 天目 | 碗 | 底部 | | － | － | 3.9 | 15 | ヤシキ７ | | 表採 | | | 453 | |
| 14-88 | 黒釉？ | 天目？ | | | | 14.4 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 22 | |
| 15-89 | 褐釉 | タイ産 | | 底部 | | － | － | 13.3 | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 30 | |
| 15-90 | 褐釉 | タイ産 | | 口縁 | | 11.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 36 | |
| 15-91 | 半練土器 | タイ産 | | 蓋 | | 11.8 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 19 | |
| 15-92 | 沖縄産 | | | 口縁 | | 12.25 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 53 | |
| 15-93 | 沖縄産 | | 小型瓶 | 口縁 | | 3.3 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 88 | |
| 15-94 | 沖縄産 | | 急須 | 足 | | － | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 30 | |
| 15-95 | 沖縄産 | | 碗 | 口縁 | | 8.2 | － | － | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 22 | |
| 15-96 | 沖縄産 | | 灰釉 | 口縁 | | 13.4 | － | － | 15 | ヤシキ７ | C－20 | I | | | 36 | 15今外ヤシキ7C-20 |
| 15-97 | 沖縄産 | | 白化粧 | 完形 | | 11.6 | 4.95 | 5.4 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 10 | 15今外ヤシキ7C-20 I№30 |
| 15-98 | 沖縄産 | | 白化粧 | 底部 | | － | － | 3.7 | 15 | ヤシキ７ | B－20 | I | | | 14 | |

| | | | | | | 計測値（cm ※ ,g） ※玉は mm | | | 遺跡名 | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 図番号 | 種別 | 分類 | 器種 | 部位 | 文様等 | 器：口径<br>他：外径<br>銭：外径<br>単位＝cm<br>（銭以下<br>mm） | 器高<br>器厚さ<br>銭厚<br>単位＝cm<br>（銭以下<br>＝mm） | 器：底径<br>重量<br>（単位＝g） | 次 | トレンチ | グリッド | 層 | 遺構 | dot | No. | 備考 |
| 15-99 | 銭貨 | | | | 寛永 | 23.57 | 1.09 | 2.48 | 15 | ヤシキ7 | AC－20 | I | | | 41 | |
| 15-100 | 銭貨 | 寛永通寶 | | | 寛永 | 23.04 | 1.42 | 2.72 | 15 | ヤシキ7 | AC－20 | I | | 69 | 42 | |
| 15-101 | 鉄製品 | | 釘（大） | | | 83.6 | 10.06 | 31.61 | 15 | ヤシキ7 | AB－20 | I | | | 12 | |
| 15-102 | 石器 | | 石斧 | | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | | 表採 | | | 26 | |
| 15-103 | 青磁 | | 碗 | 底部 | | － | － | 5.5 | 15 | ヤシキ7 | B－21 | | SD01 | | 184 | 15 今外ヤシキ 7B-21 1№ 57 |
| 15-104 | 青磁 | VI類 | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 12.1 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | | SD01 | | 170 | |
| 15-105 | 青磁 | | 小杯 | 口縁 | | 5.9 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | | SD01 | | 170 | |
| 15-106 | 白磁 | C３ | 碗 | 口縁 | ピロースクタイプ（無文外反） | 18.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | | SD01 | | 180 | |
| 15-107 | 白磁 | | | 底部 | | － | － | 4.6 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | | SD01 | | 186 | |
| 15-108 | 褐釉 | | 大型壺 | 口縁 | | 15.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－21 | | SD01 | | 184 | |
| 15-109 | 褐釉 | タイ産 | | 底部 | | － | － | 14 | 15 | ヤシキ7 | C－21 | | SD01 | | 202 | |
| 15-110 | カムイヤキ | | 壺 | 底部 | | － | － | 9.4 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 106 | |
| 15-111 | カムイヤキ | | | 底部 | | 18.1 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S333 | 52 | 396 | |
| 15-112 | 青磁 | V類 | 碗 | 口縁 | 無鎬連弁文 | 12.1 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 105 | |
| 16-113 | 青磁 | IV類 | 碗 | 口縁 | 弦文帯 | 18.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 144 | |
| 16-114 | 青磁 | | 盤 | 底部 | | － | － | 8.7 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 209 | |
| 16-115 | 青磁 | | 盤 | 口縁 | | － | － | 9.95 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | 21 | 264 | |
| 16-116 | 青磁 | | III | 底部 | | － | － | 5.4 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 276 | |
| 16-117 | 青磁 | V類 | III | 底部 | 腰折 | － | － | 5.4 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 84 | |
| 16-118 | 青磁 | III類 | III | 口縁 | 口折（連弁文） | 10.6 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 144 | |
| 16-119 | 青磁 | III類 | III | 底部 | 口折（連弁文） | － | － | 6.2 | 15 | ヤシキ7 | B－19 | II | | | 354 | |
| 16-120 | 青磁 | V類 | III | 口縁 | 腰折外反（無文） | 12.4 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 283 | |
| 16-121 | 青磁 | V類 | III | 口縁 | 腰折稜花 | 11.4 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 208 | |
| 16-122 | 青磁 | V類 | III | 口縁 | 腰折稜花 | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 283 | |
| 16-123 | 青磁 | V類 | III | 口縁 | 腰折稜花 | 10.8 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 208 | |
| 16-124 | 青磁 | V類 | III | 口縁 | 腰折稜花 | 11.2 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 250 | |
| 16-125 | 青磁 | V類 | III | 口縁 | 直口口縁（無文） | 11.6 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 329 | |
| 16-126 | 青磁 | | III | 口縁 | 直口口縁（無文） | 10 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S1 4 | | 255 | 15 今外ヤシキ 7C-20 II№ 118<br>15 今外ヤシキ 7C-20 1№ 136 |
| 16-127 | 青磁 | V類 | III | 口縁 | 直口口縁（連弁文） | 8.2 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 144 | |
| 16-128 | 青磁 | V類 | III | 底部 | | 6.9 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 209 | |
| 16-129 | 青磁 | V類 | III | 口縁 | 直口口縁（無文） | 12 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | ? | |
| 16-130 | 青磁 | V類 | III | 底部 | 直口口縁（無文） | － | － | 6 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 356 | |
| 16-131 | 青磁 | 同安窯系 I 類 | III | 口縁 | | 11.8 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 106 | |
| 16-132 | 青磁 | 同安窯系 I 類 | III | 底部 | 櫛描文 | － | － | 4.5 | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 240 | |
| 16-133 | 青磁 | II類 | 碗 | 口縁 | 無鎬連弁文 | 15.3 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 193 | |
| 16-134 | 青磁 | II類 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | 16.9 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | III | | 44 | 410 | |
| 16-135 | 青磁 | | 盤 | 口縁 | 直口口縁 | 24 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 209 | 15 今外ヤシキ 7C-20 II№ 106 |
| 16-136 | 青磁 | IV類 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | 14.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 118 | |
| 16-137 | 青磁 | IV類 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | 14.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 324 | |
| 16-138 | 青磁 | IV類 | 碗 | 口縁 | 無文直口 | 17.9 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 193 | |
| 17-139 | 青磁 | IV－V | 碗 | 口縁 | 無文外反 | 17.9 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 236 | |
| 17-140 | 青磁 | IV－V | 碗 | 口縁 | 無文外反 | 18.1 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 208 | |
| 17-141 | 青磁 | V類 | 碗 | 口縁 | 雷文帯 | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 236 | |
| 17-142 | 青磁 | VI類 | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 14.2 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 380 | |
| 17-143 | 青磁 | VI類 | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 12.4 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 235 | |
| 17-144 | 青磁 | VI類 | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 13.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－19 | II | | | 344 | |
| 17-145 | 青磁 | VI類 | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 11.6 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 105 | |
| 17-146 | 青磁 | | 香炉 | 口縁 | | 8.6 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－19 | II | | | 344 | |
| 17-147 | 青磁 | 双耳方瓶 | 瓶 | 底部 | | － | － | 11 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 144 | |
| 17-148 | 青磁 | 酒会壺 | 壺 | 口縁 | | 16.9 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 324 | |
| 17-149 | 青磁 | | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 14 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S2 | | 256 | |
| 17-150 | 青磁 | | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 11.3 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | | S113 | 45 | 390 | |
| 17-151 | 青磁 | | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 13.7 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | | S338 | 57 | ? | 15 今外ヤシキ 7B-20 S338 dot59 №422 |
| 17-152 | 青磁 | | 碗 | 口縁 | 連弁文 | 15.1 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S2 | 34 | 412 | 15 今外ヤシキ 7C-21 II№ 236<br>15 今外ヤシキ 7C-20 III dot70 №444 |
| 17-153 | 青磁 | IV or V | 碗 | 口縁 | 無文外反 | 13.1 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S332 | 37 | 395 | |
| 17-154 | 青磁 | V類 | III | 完形 | 腰折外反 | 11.7 | 3.7 | 5.5 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S95 | 30 | 364 | 15 今外ヤシキ 7C-20 II№ 143<br>15 今外ヤシキ 7B-20 II№ 212 |
| 17-155 | 青磁 | VI類 | III | 口縁 | 腰折稜花 | 14.1 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S33 | 36 | 408 | |
| 17-156 | 青磁 | V類 | III | 完形 | 直口口縁連弁文 | 10.4 | 3.1 | 5.9 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | 14 | 197 | 15 今外ヤシキ 7B-20 II№ 118 |
| 17-157 | 青磁 | V類 | 小碗 | 底部 | | － | － | 3.2 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | 8 | 116 | |
| 17-158 | 青磁 | VI類 | 碗 | 口縁・<br>底部 | 連弁文 | 13.2 | － | 4.4 | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | 17 | 245 | （口縁）15 今外ヤシキ 7C-20 II№ 324<br>15 今外ヤシキ 7C-21 II№ 235<br>（底部）15 今外ヤシキ 7C-19 II№ 308<br>15 今外ヤシキ 7C-20 II№ 143<br>15 今外ヤシキ 7C-21 II 236 |
| 17-159 | 青磁 | VI類 | 碗 | 底部 | | － | － | 5 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | 11 | 198 | |
| 17-160 | 青磁 | VI類 | 碗 | 底部 | | － | － | 5.5 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | 25 | 328 | |
| 18-161 | 白磁 | A群 | III | 口縁 | 口禿げ | 12.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 241 | 15 今外ヤシキ 7C-20 II№ 143 |
| 18-162 | 白磁 | A群 | 碗 | 口縁 | 口禿げ | 16.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | III | | 56 | 398 | |
| 18-163 | 白磁 | D | III | 口縁 | | 9.1 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 193 | |
| 18-164 | 白磁 | D | III | 完形 | | 8.65 | － | 5 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 118 | |
| 18-165 | 白磁 | D | 杯 | 底部 | | － | － | 2.5 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 111 | |
| 18-166 | 白磁 | D | III | 底部 | | － | － | 5.1 | 15 | ヤシキ7 | C－19 | II | | | 92 | |
| 18-167 | 白磁 | D | | 口縁 | 八角杯 | 5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 329 | |
| 18-168 | 象嵌青磁 | | | 口縁 | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 113 | 15 今外ヤシキ 7B-20 1№ 19 |
| 18-169 | 白磁 | | 香炉 | 足 | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 276 | |
| 18-170 | 鉄釉 | | III | 口縁 | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 307 | |
| 18-171 | 青花 | I類 | III | 底部 | | － | － | 9 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S70 | 18 | 261 | |
| 18-172 | 青花 | IV類 | 碗 | 口縁 | | 14.8 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－21 | | S407 | 40 | 403 | |
| 18-173 | 青花 | | 小杯 | 底部 | | － | － | 2 | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 235 | |
| 18-174 | 青花 | II類 | 碗 | 口縁 | | 13.5 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 207 | |
| 18-175 | 青花 | | 小壺 | 口縁 | | 1.9 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 111 | |
| 18-176 | 青花 | | | 底部 | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | 1 | 91 | |
| 18-177 | 褐釉 | | 大型壺 | 口縁 | 方形口縁 | 15.9 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 114 | |
| 18-178 | 褐釉 | V類 | | 底部 | | － | － | 11.5 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 84 | 15 今外ヤシキ 7B-20 1№ 14 |
| 18-179 | 褐釉 | | 円盤状<br>製品 | | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 105 | |
| 18-180 | 褐釉 | | 壺 | | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 144 | |
| 18-181 | 褐釉 | | 壺 | | | 11.2 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 105 | |
| 18-182 | 褐釉 | | 壺 | | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | | 157 | |
| 18-183 | 褐釉 | | 小壺 | 底部 | | － | － | 11 | 15 | ヤシキ7 | B－19 | II | | | 344 | |
| 18-184 | 褐釉 | | 不明 | 底部 | | － | － | 1.95 | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | | 235 | |
| 18-185 | 半練土器 | タイ産 | | 蓋 | | 8.8 | － | － | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 208 | |
| 19-186 | 銭貨 | 元豊通寶 | | | 北宋 | 25.29 | 1.15 | 2.94 | 15 | ヤシキ7 | C－20 | II | | 24 | 322 | |
| 19-187 | 銭貨 | 大成通寶 | | | | 23.52 | 1.65 | 4.11 | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | 22 | 287 | |
| 19-188 | 青銅 | | 装飾品 | | | 24.59 | 2.35 | 3.79 | 15 | ヤシキ7 | C－21 | II | | 15 | 441 | |
| 19-189 | 青銅 | | 装飾品 | | | 33.36 | 1.2 | 2.84 | 15 | ヤシキ7 | B－20 | II | | | 210 | |
| 19-190 | 鉄製品 | | 釘（中） | | | 43.08 | 3.41 | 2.08 | 15 | ヤシキ7 | B－19 | II | | | 357 | |
| 19-191 | 石器 | | 砥石 | | | － | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－20 | | S 6 1 | 19 | 262 | |
| 19-192 | 青磁 | | 盤 | 口縁 | | 21.3 | － | － | 15 | ヤシキ7 | | | | | | |
| 19-193 | 白磁 | D | III | 口縁 | 直口口縁 | 11.8 | － | － | 15 | ヤシキ7 | | | | | | |
| 19-194 | 黒釉 | | 小壺 | 口縁 | | 4.2 | － | － | 15 | ヤシキ7 | C－19･20 | | | | 456 | |

## 第３節　中区試掘調査（外郭 21 次調査）

平郎門前にはかつて、店舗が立ち並びにぎわいのある場所であった。しかし、周辺の整備を進めていくなかで、城外への移動していただき、既存のトイレや大正時代に建てられた鳥居も撤去がなされ、往時の姿を取り戻しつつある。本地区は外郭から平郎門へ至るルート上にあり、グスクの防御を考えるうえで最重要地区の１つである。現在はかつて鳥居があった場所から平郎門までまっすぐな石畳道が整備されている。これは昭和 30 年代に平郎門と大隅城壁が復元された際に整備されたものである。

21 次調査では平郎門前の堆積状況を確認することを目的に試掘調査を実施した。試掘調査では、石畳道が整備される前の地表面が検出されており、かつての地表面は現在よりも約 60cm 低かったことが分かっている。詳細な報告は次回に譲り、今回は試掘調査実施個所を以下に示す。




第21図　外郭中区試掘調査実施個所位置図

## 第４節　カーザフ西側城壁（外郭 17 次調査）

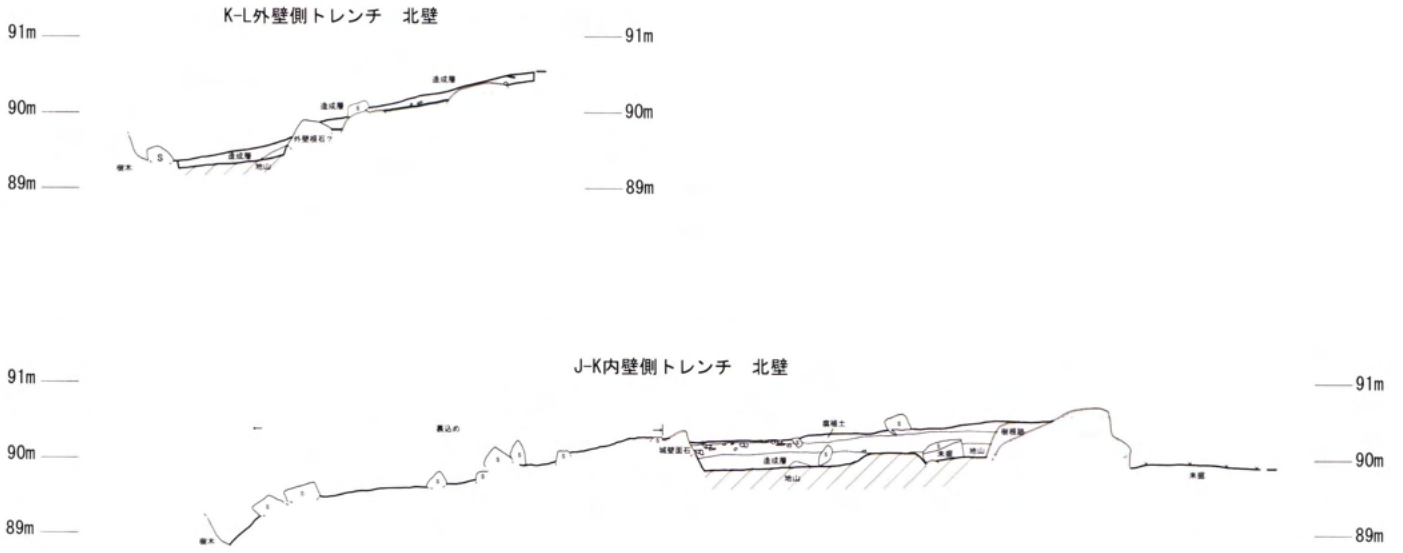
カーザフ郭は旧道のある郭の西側に位置する窪地のことをいう。この郭は中央部が窪み、その両側は切り立った岩盤が露頭する谷底のような地形になっている。この地名の語義は「川迫（さこ）」つまり、川の谷間として理解されている。カーザフ郭は四方を城壁に囲まれている。カーザフ郭と外郭はカーザフ北側城壁によって区切られる。14 次調査において村道下の発掘調査を行った際、外郭西側城壁が道路下で残存し、カーザフ北側城壁が外郭城壁に被る形で積まれていることが確認された。また、外郭西側城壁の延長線上にカーザフ西側城壁が続いており、本来は一連の城壁であったことが推察された。17 次調査ではカーザフ郭西側の城壁を調査対象とした。カーザフ郭西側城壁は崩落が進んでいるため、崩落石を撤去し面石ないしは根石を検出し、往時の姿を復元することを目的とした。

### １．層序

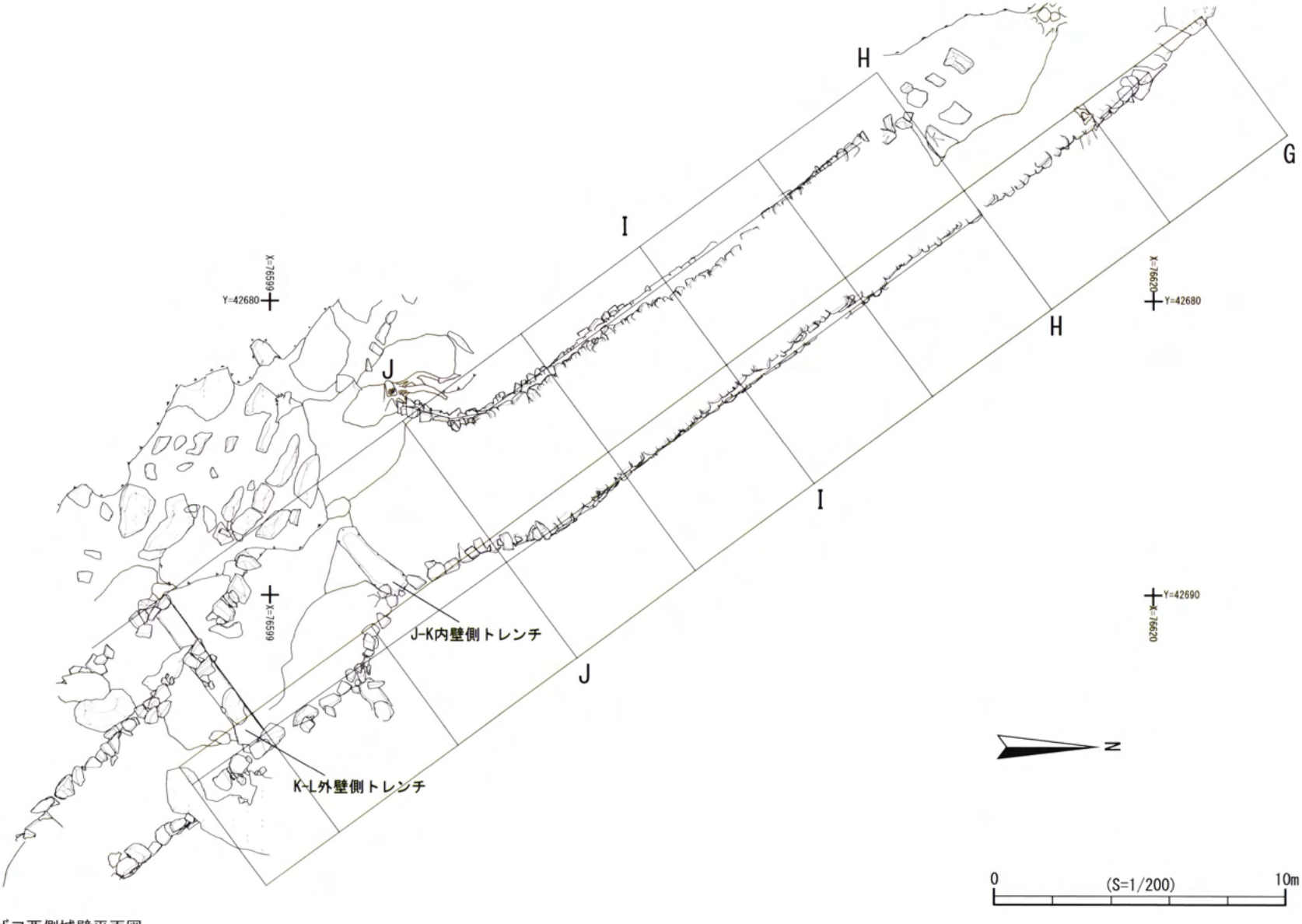
Ⅰ　層：【褐色土層ほか】腐植土及び表土からなる。調査区全体を覆う堆積土。

造成層：【褐色土層】城壁根石はこの造成層の上に据えられている。当該地は尾根の稜線上に位置し岩盤が露頭する地域である。そのため、尾根の上を造成し城壁積み上げたものとかんがえられる。

地山層：【明黄褐色土層】無遺物の自然堆積層。古期石灰岩があちこちで露頭する。

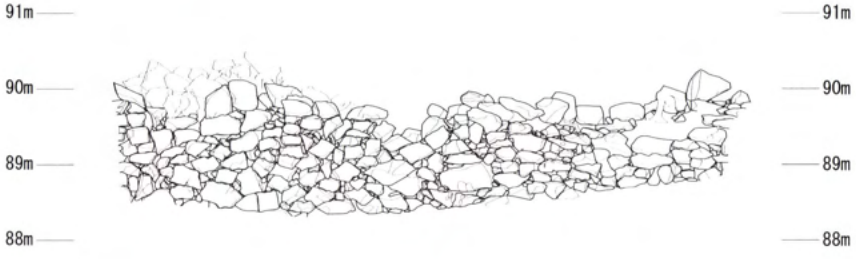



第 22 図　カーザフ西側城壁層序

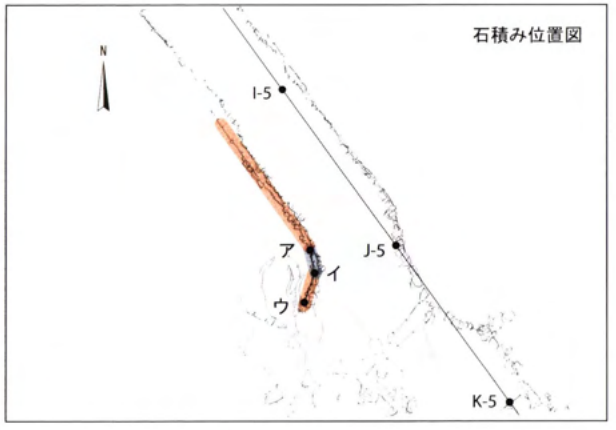



第 23 図　カーザフ西側城壁平面図

# I－J外壁

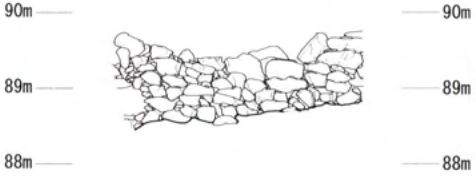



第 24 図－ 1




第 24 図－ 4　I－J 外壁位置図

# ア－イ軸

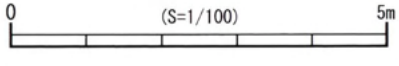



第 24 図－ 2

# イ－ウ軸

第 24 図－ 3

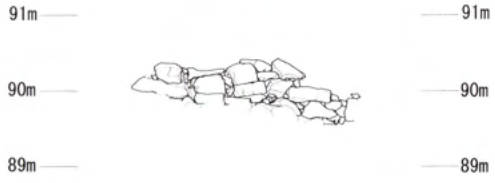
第 24 図　I－J 外壁



## I-J内壁C-B軸

第25図-1

## I-J内壁B-A軸

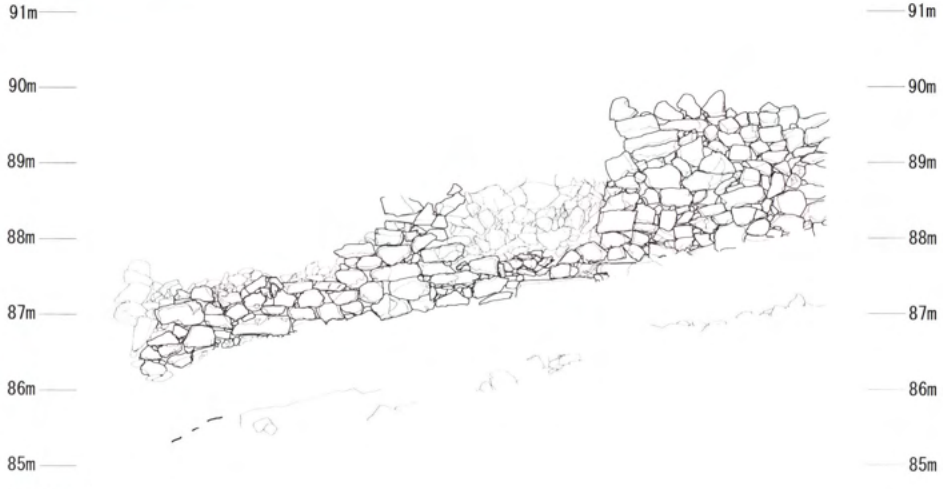



第25図-2

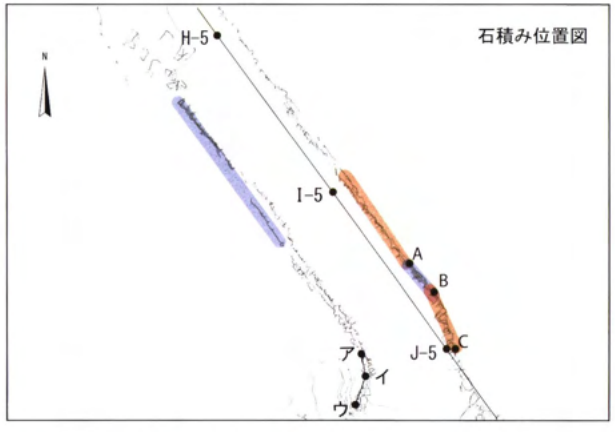
## I-J内壁

第25図-3

## H-I外壁




第25図-4

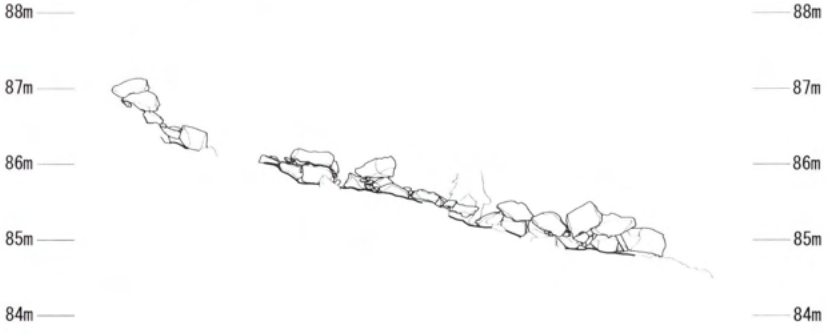



第25図-5　I-J内壁、H-I外壁位置図

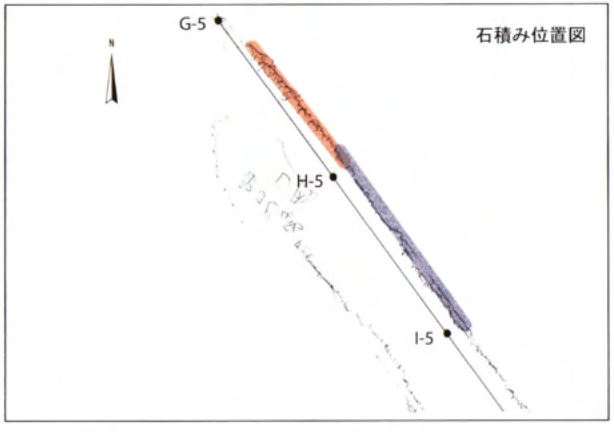
0　(S=1/100)　5m

第25図　I-J内壁、H-I外壁

# G-H内壁

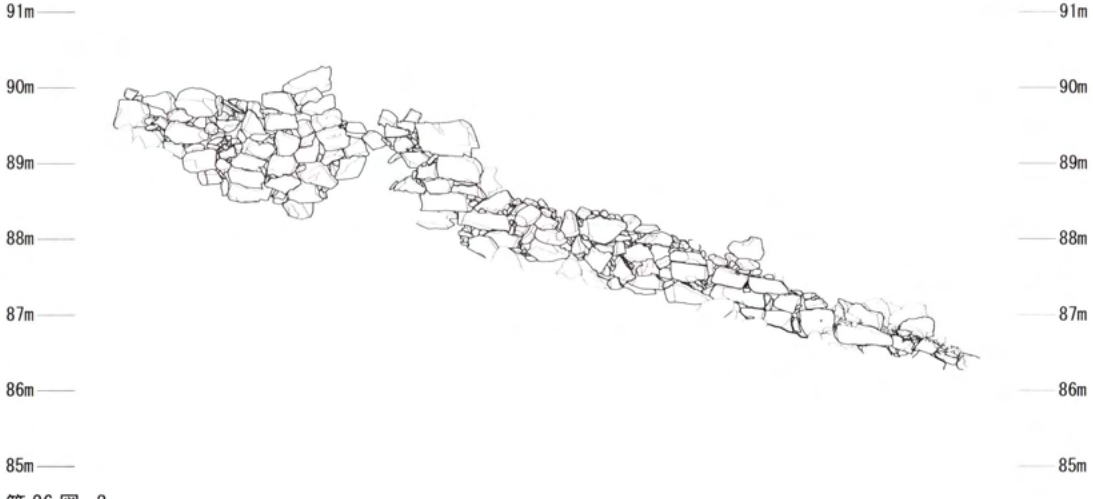



第 26 図- 1



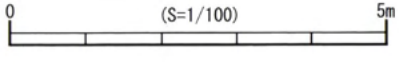

第 26 図- 3　G－H 内壁、H-I 内壁位置図

# H-I内壁




第 26 図- 2

第 26 図　G-H 内壁、H-I 内壁



## 2．遺構

**[名称]** カーザフ西側城壁

**[位置]** カーザフ郭西側　　**[検出面]** 地表面より露出、造成層より検出

**[規模]** 残存部約 48m　幅約 5m　最大高約 2.2m

**[所見]** カーザフ西側城壁では、城壁と平行する任意の基準線を引き、この基準線に直交する軸線を 10m 間隔で引きアルファベットを付した。2 つのアルファベット間の内壁及び外壁を 1 単位として実測図を作成した。（例：G と H の間の内壁側を「G-H 内壁」）。遺構は全体的に崩落が進み、残存部も孕み出し等が見られた。以下、石積の現況を記述する。

### 内壁

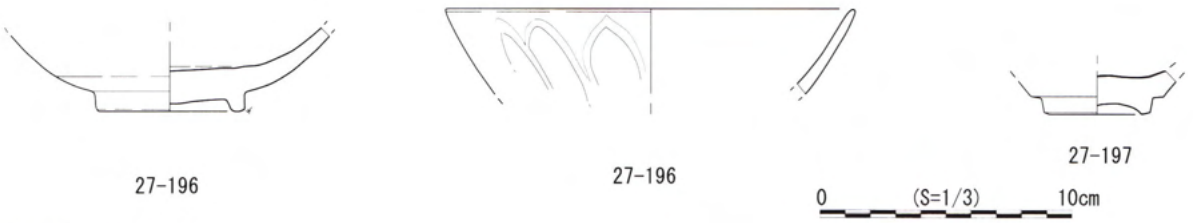
内壁側は軸線 G ～ J までの範囲で積み石が確認された。J-K 内壁側では、地表面で城壁の残存は見られない状況であった。しかし、散乱する雑石を除去すると根石が検出され外壁側に湾曲するラインが確認できた。残存する城壁についても劣化は著しく、G-H 内壁は 1 石ないし 2 石程度の残存状況で、H-I,I-J 内壁では一部で 2 m程度の積み石があるが、ほとんどが 1 m程度の高さまでしか残っていなかった。また、孕み出しや石材の割れなど劣化が見られる部分も見られた。

### 外壁

外壁側は軸線 H ～ J までは直線的に積まれ、軸線 J 付近から外側に張り出していく。これは今帰仁城跡でアザナ突出部と呼んでいる部分とみられるが 3m ほどしか残っていない。軸線 I 付近は最も保存状況が良く高さ 2m 程度が残る。I-J 外壁は軸線 I から J に向かって +5 ～ 7m にかけて大きく崩落しているほか、部分的に孕み出しなどが見られた。I-J 外壁は H-I 外壁に比べて石材がやや小ぶりとなる印象を受ける。残存部では劣化はそれほど見られず、安定して残っている。張り出し部でも石材は小ぶりである。張り出し部の突端は現存していない。これは根石、もしくは根石が乗っていた造成層も見られないことから、後世に大きな地形の改変があったことが考えられる。

## 3．遺物

カーザフ西側城壁調査では陶磁器 3 点、鉄製品 2 点、獣骨 2 点の遺物が得られた。今回は陶磁器について報告する。第 27 図 -195 は龍泉窯系 I 類の底部資料、196 は同Ⅳ類の口縁部資料で外面に無鎬蓮弁文を施す。これら 2 点は J-K 内壁側トレンチの造成層から出土した資料である。197 は天目茶碗の底部で J-K 内壁側の礫撤去中に出土した。




第 27 図　カーザフ西側城壁出土遺物

## 第5節　カーザフ北側城壁（外郭20次調査）

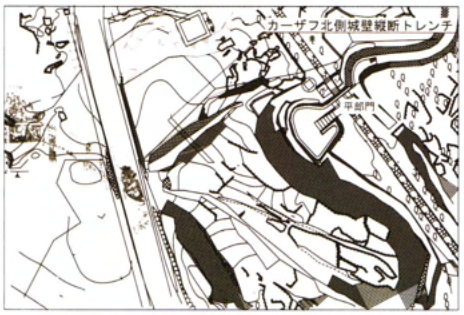
カーザフ北側城壁は外郭中区とカーザフ郭を区画する城壁である。現況では外郭に面する北面に面石が残り、カーザフ側の南面には面石は見られず土盛り状になる。平成22年に実施した14次調査において、村道下に残る外郭西側城壁に接続し、外郭西側城壁はそのままカーザフ西側城壁方向に延びる様子が確認された。20次調査ではカーザフ北側城壁を縦断するトレンチ調査と外郭中区の試掘調査を実施した。ここではカーザフ北側城壁のトレンチを報告する。

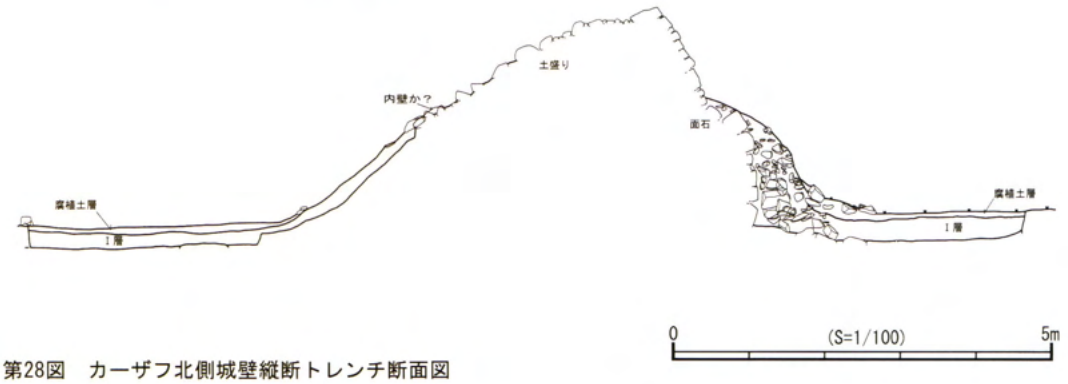
### 1．層序

Ⅰ　層：【褐色土層ほか】腐植土と耕作土からなる。
Ⅱ　層：【暗褐色土】遺物包含層。未掘。

### 2．遺構

**[名称]** カーザフ北側城壁　　**[位置]** 外郭中区・カーザフ郭
**[遺構図]** 第28図　**[検出面]** 地表面に露出　**[規模]** 長さ約35m、高さ約3m
**[所見]** カーザフ北側城壁はカーザフ郭と外郭中区を区切る城壁で、外郭側の北面に石積が残っている。しかし、下半分は土盛りに埋まっている状態であった。城壁に縦断するトレンチを入れて調査したところ、土盛りの中からも石積が見つかり、城壁が地中から立ち上がっていることが明らかとなった。石積の保存状況は悪く、土盛り内では大きく孕み出している。反対に、土盛りより上の部分は後方に倒れているようで、今帰仁グスクの他の城壁より緩い勾配になっている。




第28図　カーザフ北側城壁縦断トレンチ断面図

## 第6節　カーザフ東側城壁（外郭22次調査）

22次・23次調査はカーザフ郭の東側と南側城壁の根石確認調査を行っている。平郎門から西側のアザナ一帯は昭和30年代に復元された城壁であるが、東側城壁と南側城壁ではこれまで復元等の整備歴はなくオリジナルの状態を保存している城壁である。しかし、崩落も進んでおり、現状を記録するため崩落石を撤去し城壁面を露出させ、写真測量を行った。なお、崩落石の撤去等の検出作業は直営で行い、写真測量は（株）琉球サーベイに委託して実施した。

### 1．遺構

**[名称]** カーザフ東側城壁　　**[位置]** カーザフ郭東側　　**[遺構図]** 付図1
**[検出面]** 地表面に露出　　**[規模]** 長さ約40m、高さ約2m
**[所見]** カーザフ東側城壁は平郎門西側のアザナに接続する城壁でカーザフ郭の東側にあり旧道のある郭とカーザフ郭を区画する城壁である。平郎門西側のアザナから南東方向に延び南側城壁とともにカーザフ郭を囲繞する。カーザフ東側は岩盤が露頭しており、城壁も岩盤上から立ち上がっている。面石の崩落が進み、壁面は崩落石に覆われていた。崩落石を除去すると、面石が良好な保存状況で検出された。南側では積みなおした形跡があり、面石に使用される石材は小ぶりで、積み方も稚拙になる。南側城壁との接続部は崩落石で覆われ、これ以上の撤去作業は危険であったため、現況ではラインを追いかけることができなかった。

**[名称]** カーザフ南側城壁　　**[位置]** カーザフ郭南側　　**[遺構図]** 付図2
**[検出面]** 地表面に露出　　**[規模]** 高さ約5.6m、長さ約20m
**[所見]** カーザフ南側城壁はカーザフ郭の最奥部に位置する城壁で、旧道のある郭とカーザフを区画する城壁である。カーザフは谷地形をなしており、東西に岩盤が露頭し北側の開けた地形に北側城壁を築いている。しかし、最奥部である南側は現況で高さ約5.6mの城壁が残存する。城壁の西側は岩盤に接続する。さらに西側に城壁は続くが、今回の調査区からは外れている。城壁の現況は中央部が大きく崩落しているものの、それ以外は概ね良好な保存状況である。城壁前面には崩落石がまだ多量に残っており、根石の検出にはいたらなかった。

第３表　屋敷地７遺物集計表（1）

| 種別 | 分類 | 文様等 | 部位 | 出土遺物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 破片数小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | Ⅰ層 | Ⅱ層 | Ⅰ＋Ⅱ | Ⅰ＋Ⅱ上面 | SD01 | Ⅰ＋SD01 | Ⅲ層 | S | S2 | Ⅱ＋S2 | Ⅱ＋S14 | S17 | S33 | S67 | S70 | S73 | Ⅱ＋S95 | S110 | S113 | Ⅱ＋S126 | S159 | S211 | S215 | Ⅱ＋S326 | S332 | S334 | S338 | S407 | |
| 青磁 | 碗 | 龍泉窯系Ⅰ類 | 劃花文 | 口縁 | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | | | | 底部 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 龍泉窯系Ⅱ類 | 鎬連弁 | 口縁 | 7 | 2 | 1 | | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13 |
| | | | | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 龍泉窯系Ⅲ類 | 砧手 | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 龍泉窯系Ⅳ－Ⅴ | 無文外反 | 口縁 | 64 | 20 | | | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 93 |
| | | | 不明 | 底部 | | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | | 龍泉窯系Ⅳ類 | 弦文帯 | 口縁 | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | 龍泉窯系Ⅴ類 | 雷文帯 | 口縁 | 19 | 16 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 38 |
| | | | 連弁文 | 口縁 | 9 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 11 |
| | | | 無鎬連弁 | 口縁 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 3 |
| | | | 小碗 | 底部 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 龍泉Ⅴ－Ⅵ類 | 細蓮弁文 | 底部 | 13 | | | | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 17 |
| | | 龍泉Ⅵ類 | 無文直口 | 口縁 | 122 | 96 | | | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 238 |
| | | | 細蓮弁文 | 口縁 | 282 | 91 | 2 | | 11 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | 2 | 1 | 1 | | 1 | | | | 1 | | 397 |
| | | | | 底部 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 不明 | 底部 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 龍泉Ⅶ類 | 不明 | 口縁 | 18 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 18 |
| | | 不明 | 不明 | 口縁 | 20 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 20 |
| | | | | 底部 | 40 | 10 | 1 | | 4 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 56 |
| | 碗　合計 | | | | 603 | 251 | 4 | | 53 | 2 | 2 | | 1 | 1 | | | | 1 | | 1 | | 1 | 2 | 1 | 1 | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 928 |
| | 皿 | 同安窯系Ⅰ類 | 櫛描文 | 完形 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | 口縁 | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | | | | 底部 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | | | 無　文 | 完形 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | 口縁 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | 同安窯系Ⅲ類 | 口折（鎬蓮弁） | 口縁 | 8 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 |
| | | | | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 不明 | 底部 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 龍泉窯系Ⅲ－Ⅳ | 口折（双魚文） | 底部 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 龍泉窯系Ⅳ－Ⅴ | 腰折外反 | 完形 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | 口縁 | 31 | 2 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 34 |
| | | | | 底部 | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | 龍泉窯系Ⅴ類 | 口折（無鎬蓮弁） | 口縁 | 7 | 1 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| | | | 腰折稜花 | 口縁 | 90 | 45 | | | 8 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 144 |
| | | | 外反口縁 | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 直口口縁蓮弁 | 完形 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | 口縁 | 3 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | | | | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 直口口縁無文 | 口縁 | 10 | 5 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 16 |
| | | | | 底部 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 不明 | 底部 | 33 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | 37 |
| | | 不明 | 口折（稜花） | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 不明 | 口縁 | 1 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 5 |
| | | | | 底部 | 2 | 8 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | 14 |
| | 皿　合計 | | | | 201 | 77 | 2 | | 19 | 1 | 1 | | | | 1 | | 1 | | | | 1 | | | | 1 | | 1 | | | | | | 306 |
| | 盤 | 鍔縁盤 | | 口縁 | 23 | 6 | 4 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 34 |
| | | | 鍔縁稜花 | 口縁 | 5 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | | | 直口 | 口縁 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | | 不明 | 底部 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | 瓶 | | 梅瓶 | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 双耳方瓶 | 底部 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 壺 | | 酒会壺 | 口縁 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 香炉 | | | 口縁 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 不明 | | | 底部 | 1 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| 白磁 | 碗 | | A群（口禿） | 底部 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 福建浦口窯 | F群（今帰仁） | 底部 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | 福建閩清窯 | C1（ピロースク1） | 口縁 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | | | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | C2（ピロースク2） | 口縁 | 3 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | | | 底部 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | | C3（無紋外反） | 口縁 | 6 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 |
| | | 福建邵部窯 | D2（端反り） | 口縁 | 5 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | 碗　合計 | | | | 23 | 5 | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 31 |
| | 皿 | | A群（口禿） | 口縁 | 4 | 3 | | | 1 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| | | | | 底部 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | | 景徳鎮窯系 | E群（小皿） | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | E群（碁笥底） | 底部 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | E群（外反皿） | 口縁 | 7 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| | | | | 底部 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | | E群（直口皿） | 口縁 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | | D群？ | 口縁 | 5 | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 |
| | | | | 底部 | 4 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 8 |
| | | | D群（直口） | 口縁 | 7 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 14 |
| | | | | 完形 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 皿　合計 | | | | 39 | 19 | 2 | | 2 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | 65 |
| | 杯 | 福建庄辺窯 | D群（八角杯） | 口縁 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 香炉 | | | 足 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 壺 | | | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 不明 | 不明 | 不明 | 口縁 | 8 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| | | | | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 青花 | 明（碗） | Ⅱ類 | 外反 | 口縁 | 22 | 11 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 35 |
| | | | | 底部 | 4 | 5 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| | | Ⅲ類 | 蓮子 | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | 底部 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | ⅢかⅤ | | 口縁 | 6 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| | | Ⅳ類 | 口折 | 口縁 | 1 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 5 |
| | | Ⅴ類 | 腰折れ | 口縁 | 11 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| | | | | 底部 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | 皿 | Ⅰ類 | 外反（大皿） | 底部 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 外反 | 口縁 | 3 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | | | | 底部 | 9 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 10 |
| | | | | 完形 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | Ⅲ類 | 碁笥底 | 口縁 | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | | | 底部 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 小皿 | 不明 | 不明 | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 粗製皿 | | 口縁 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 杯 | Ⅰ類 | 筒型 | 口縁 | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | 小杯 | | | 底部 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 小壺 | | | 口縁 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 瓶 | | | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 不明 | | | 口縁 | 16 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 20 |
| | | | | 底部 | 17 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 21 |
| | 不明染付 | | | 口縁 | 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 13 |
| | | | | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 青花　合計 | | | | 113 | 34 | 1 | 1 | 7 | | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 160 |

第３表　屋敷地７遺物集計表（2）

| 種別 | | 分類 | 文様等 | 部位 | 出土遺物 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 破片数小計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | Ⅰ層 | Ⅱ層 | Ⅰ＋Ⅱ | Ⅰ＋Ⅱ上面 | SD01 | Ⅰ＋SD01 | Ⅲ層 | S | S2 | Ⅱ＋S2 | Ⅱ＋S14 | S17 | S33 | S67 | S70 | S73 | Ⅱ＋S95 | S110 | S113 | Ⅱ＋S126 | S159 | S211 | S215 | Ⅱ＋S326 | S332 | S334 | S338 | S407 | | |
| 褐釉陶器 | 壺 | 大型 | 方形口縁 | 口縁 | 16 | 4 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 21 |
| | | | | 底部 | 6 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| | | 小・中型 | | 口縁 | 4 | 5 | | | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| | | | | 底部 | 3 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | 遊具 | 円盤状製品 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 翡翠釉 | | 不明 | | 口縁 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 青白磁 | | 不明 | | 底部 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 近現代 | | 本土産 | | 口縁 | 19 | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 22 |
| | | | | 底部 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | | 湯のみ | | 底部 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 近現代？ | | 不明 | 不明 | 不明 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| タイ陶磁 | 土器 | 半練 | 蓋 | 口縁 | 4 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | 壺 | シーサッチャナライ窯系 | | 口縁 | 2 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | | | 耳 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 不明 | | | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 壺 | | | 口縁 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | | | 底部 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 7 |
| | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| ベトナム | | 色絵 | | 口縁 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 高麗青磁 | | | | 口縁 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 肥前 | | 鉄絵皿 | | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 黒釉陶器 | | 碗 | 天目 | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 杯？ | | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 小壺 | | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 南西諸島 | 徳之島 | カムイヤキ | 壺 | 口縁 | 5 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | | | | 底部 | 2 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | | 鉢 | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | グスク土器 | | 鍋 | 口縁 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | | 壺 | 底部 | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | | くびれ平底土器 | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 土器 | | 壺 | 口縁 | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | 不明 | | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | 沖縄産 | | 鉢 | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 瓦質土器 | 不明 | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | 不明 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 陶質土器 | | 口縁 | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | | | 底部 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | 褐釉陶器 | 碗 | 口縁 | 7 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 |
| | | | 小型瓶 | 口縁 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | | 瓶or壺 | 底部 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 |
| | | | 不明 | 口縁 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 不明 | 蓋 | 口縁 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | 施釉陶器（白化粧） | 碗 | 完形 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | | 口縁 | 11 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 |
| | | | | 底部 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |
| | | 施釉陶器（灰釉） | | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 施釉陶器 | 碗 | 口縁 | 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 |
| | | | 蓋 | 口縁 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | | | つまみ | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 急須 | 注ぎ口 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 三足 | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 孔を穿つ | 把手 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 不明 | 底部 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 無釉陶器 | 細首瓶 | 口縁 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | | 蓋 | 口縁 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| | | | 碗？ | 口縁 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| 石器 | | 石斧 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 礫石 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| | | 不明石器？ | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 石器合計 | | | | | 1 | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 |

# 第Ⅴ章　総　括

## 1. 今帰仁城跡外郭城外地区について

今報告書に掲載した屋敷地６および屋敷地７は外郭城壁より外側に位置している。城外地区ではこれまでに平成16年度の屋敷地５で発掘調査を行っている。屋敷地５においても多数の柱穴が検出されており、城壁の直近まで集落が広がっていたことを示しており、今回の調査の成果もこれを裏付けることとなった。また、城内管理用道路（旧県道115号線）を挟んだ東側、外郭城外東区ではこれまでのところ発掘調査を行ったことはないが、現在でも今帰仁ノロ火の神の祠の遺構があり、集落が広がっていたことが予想される。

## 2. 屋敷地６、屋敷地７の調査成果について

屋敷地６と屋敷地７では多数の柱穴が検出された。これはこれまで行ってきた今帰仁ムラ跡の発掘調査の成果とも同様であった。しかし、屋敷地３・屋敷地４で特徴的であった高倉と推定された４本柱建物跡や、母屋と倉庫群との空間の使い分けなどを示す特徴は見られなかった。ただし、屋敷地６でみられた建物跡と建物跡の間にある石列及び集石遺構はこれまでのムラ跡の調査では見られなかった遺構として注目できる。また、屋敷地７では第２次大戦中の塹壕跡として報告したSD01がある。屋敷地７の南東にある雑木林の中には堀切状の遺構があることが以前から知られていたが、この調査によってこれが堀切ではなく塹壕跡であることが示された。

## 3. 遺物について

屋敷地７の出土遺物は、グスク土器、青磁、白磁、青花、褐釉陶器、タイ産、日本本土産などの輸入陶磁器をはじめ金属製品、石製品などがあり、これまでの調査と同様にほとんどの陶磁器は中国産で占められている。古手のものとして同安窯系青磁、龍泉窯系青磁Ⅱ類、白磁Ａ類などがわずかに得られているが、遺物の主体は龍泉窯系青磁Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ類など、14世紀後半から16世紀前半ごろを示している。この点についてもこれまでの今帰仁ムラ跡の調査成果と同様である。

## 4. おわりに

以上、屋敷地６・屋敷地７、カーザフ城壁の発掘調査の成果をまとめてきた。調査の結果、外郭西側城壁の直近まで今帰仁ムラ跡の集落が広がっていたことが確認され、さらに、ハラクブ地区との間の狭い空間も利用していたことがわかってきた。また、屋敷地６で検出された石列及び集石遺構は建物間の空間の使い方を考えるうえでも検討を要する遺構である。今回の調査では塹壕跡が検出されたことは特筆される。今帰仁グスクとは直接的な関わりはないものの、地域の歴史の中で先の大戦ははずされるものではなく、今帰仁城跡にも戦争の跡が残っていたことが確認されたのである。これからは戦時中の改変も念頭に入れた調査も必要になってくる。

カーザフ郭では城壁の確認調査を行ってきた。面石の崩落や根石の欠損はあるものの、概ね良好な状態で保存されているといえる。西側城壁では一部復元整備も実施しているが、根石の欠損によって修復を保留している箇所もある。カーザフ郭は層状に発達した古期石灰岩が露頭し、雄大な城壁をもつ郭でもある。今後も整備方法を検討し今帰仁城跡の特徴のひとつである城壁を復元していくことが望まれる。

**《参考文献》**


新垣力　2011 年「無釉陶器の成立と展開」『琉球陶器の来た道』沖縄県立博物館・美術館

伊仙町教育委員会　2005 年『カムィヤキ古窯跡群Ⅳ』伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書（12）

上田秀夫　1982 年「14 ～ 16 世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』№ 2 貿易陶磁学会

上田秀夫　1991 年　「16 世紀末から 17 世紀前半における中国染付碗・皿の分類」『関西近世考古学研究』Ⅰ　関西近世考古学研究会

上原静　2010 年「琉球砥石考」『南島考古』No.29 号　沖縄考古学会

沖縄県教育委員会　1993 年『湧田古窯跡（Ⅰ）－県庁舎行政棟建設に係る発掘調査－』沖縄県文化財調査報告書第 111 集

沖縄県教育委員会　1998 年『首里城跡－京の内跡発掘調査報告書（Ⅰ）－』沖縄県文化財調査報告書第 132 集

沖縄県教育委員会 2008 年『沖縄の金工関係史料調査報告書』沖縄県史料調査シリーズ第 4 集沖縄県文化財調査報告書第 146 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2004 年『首里城跡－城郭南側下地区発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 19 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2007 年『渡地村跡－臨港道路那覇 1 号線に伴う緊急発掘調査報告－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 46 集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2009 年『首里城跡－京の内発掘調査報告書（Ⅱ）－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第 49 集

小野正敏　1982 年　「15・16 世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究』№ 2　貿易陶磁学会

亀井明徳／ John N.Miksic　共著編　『インドネシア・トローラン遺跡発見陶瓷の研究』

九州近世陶磁学会　2000 年『九州陶磁の編年』

金武正紀 1987 年「沖縄のグスク」『考古学ジャーナル』No.284 ニューサイエンス社

金武正紀 1988 年「ビロースクタイプ白磁碗について」『貿易陶磁研究』No. 8

金武正紀 2007 年「今帰仁タイプ白磁碗」『南島考古』No.26　沖縄考古学会 pp.187-196

金武正紀 2003 年「沖縄出土の産地不明陶器」貿易陶磁研究№ 23

九州近世陶磁学会　2000 年『九州陶磁の編年　九州近世陶磁学会 10 周年記念』

九州近世陶磁学会　2002 年『国内出土の肥前陶磁　西日本の流通をさぐる（第 1 分冊）』

下地安広　1994 年「沖縄の遺跡から出土する近代磁器－浦添の遺跡を中心に－」『南島考古』No.14 号　沖縄考古学会

瀬戸哲也・ほか　2007 年「沖縄における貿易陶磁研究－ 14 ～ 16 世紀を中心に－」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』補遺編

東京国立博物館　1990 年『東京国立博物館図版目録　中国陶磁編Ⅱ』

永井久美男　2002 年『新版　中世出土銭の分類図版』高志書院

仲原哲弘 1993 年『なきじん研究』vol.3　今帰仁村教育委員会

仲原哲弘 2007 年『なきじん研究』vol.15　今帰仁村教育委員会

今帰仁村教育委員会　1983 年『今帰仁城跡発掘調査報告書Ⅰ－志慶真門郭の調査－』今帰仁村文化財調査報告書第 9 集

今帰仁村教育委員会　1986 年『今帰仁城跡周辺遺跡範囲確認調査報告書』今帰仁村文化財調査報告書第 12 集

今帰仁村教育委員会　1991 年『今帰仁城跡発掘調査報告書Ⅱ－主郭（俗称本丸）の調査－』今帰仁村文化財調査報告書第 14 集

今帰仁村教育委員会　2005 年『今帰仁城跡周辺遺跡Ⅱ－今帰仁城跡周辺整備事業に伴う緊急発

掘調査報告－』今帰仁村文化財調査報告書第 20 集
今帰仁村教育委員会　2006 年『史跡　今帰仁城跡－外郭発掘調査概報－』今帰仁村文化財調査報告書第 23 集
今帰仁村教育委員会　2007 年『今帰仁城跡周辺遺跡Ⅲ－村内遺跡発掘調査報告－』今帰仁村文化財調査報告書第 24 集
今帰仁村教育委員会　2008 年『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅲ－今帰仁ムラ跡西区屋敷地 5 の調査－』今帰仁村文化財調査報告書第 25 集
今帰仁村教育委員会　2009 年『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅳ－今帰仁城跡外郭報告 1 －』今帰仁村文化財調査報告書第 26 集
那覇市史編集委員会（編）1970 年『那覇市史』資料編第 1 巻 2 所収「琉球渡海日々記」
ネイチャー・プロ編集室　1996 年『色々な色』光琳堂出版
原田禹雄（訳注）1998 年『蔡鐸本 中山世譜（琉球弧叢書 (4)）』榕樹書林
真壁忠彦　1977 年「備前」『世界陶磁全集　3　日本中世』小学館
美濃口雅朗 2002 年「越州窯系青磁窯跡の踏査」『貿易陶磁研究』No.22
宮城弘樹　2006 年「グスクと集落の関係について（覚書）－今帰仁城跡を中心として－」『南島考古』No.25　沖縄考古学会
宮城弘樹・具志堅亮　2007 年「中世並行期における南西諸島の在地土器の様相」『廣友会誌』第 3 号　廣友会
和田久徳・ほか 2001 年『明実録の琉球史料（一）』沖縄県文化振興会公文書管理部史料編集室
（五十音順）

1. 屋敷地 6 完掘状況

3. 石列遺構検出状況

2. 遺構検出状況

5. SB01 検出状況

4. SB02 検出状況

図版2　屋敷地7①

1. 屋敷地7完掘状況

3. 塹壕内礫検出状況

2. 塹壕検出状況

5. 作業状況

4. Ⅱ層検出状況

1. 遺構検出状況

2. 染付検出状況

3. 銅製品検出状況

4. SB01、SB02 検出状況

5. 塹壕トレンチ完掘状況

1. T. P. 2 旧地表面検出状況

2. T. P. 2 礫検出状況

3. T. P. 2 礫検出状況

4. T. P. 1 完掘状況

5. A-31 トレンチⅠ層状況

# 図版5　カーザフ西側城壁

1. 内壁側着手前

2. H-I 外壁根石検出状況

3. I-J 内壁面石検出状況

4. J-K 内壁側トレンチ青磁出土状況

5. J-K 内壁側セクション

図版6　カーザフ郭城壁根石確認調査①

1. カーザフ東側城壁着手前

2. カーザフ南側城壁着手前

1. カーザフ東側城壁面石検出状況

3. カーザフ北側城壁縦断トレンチ城壁検出状況

2. カーザフ北側城壁縦断トレンチ着手前

4. カーザフ東側城壁面石検出状況

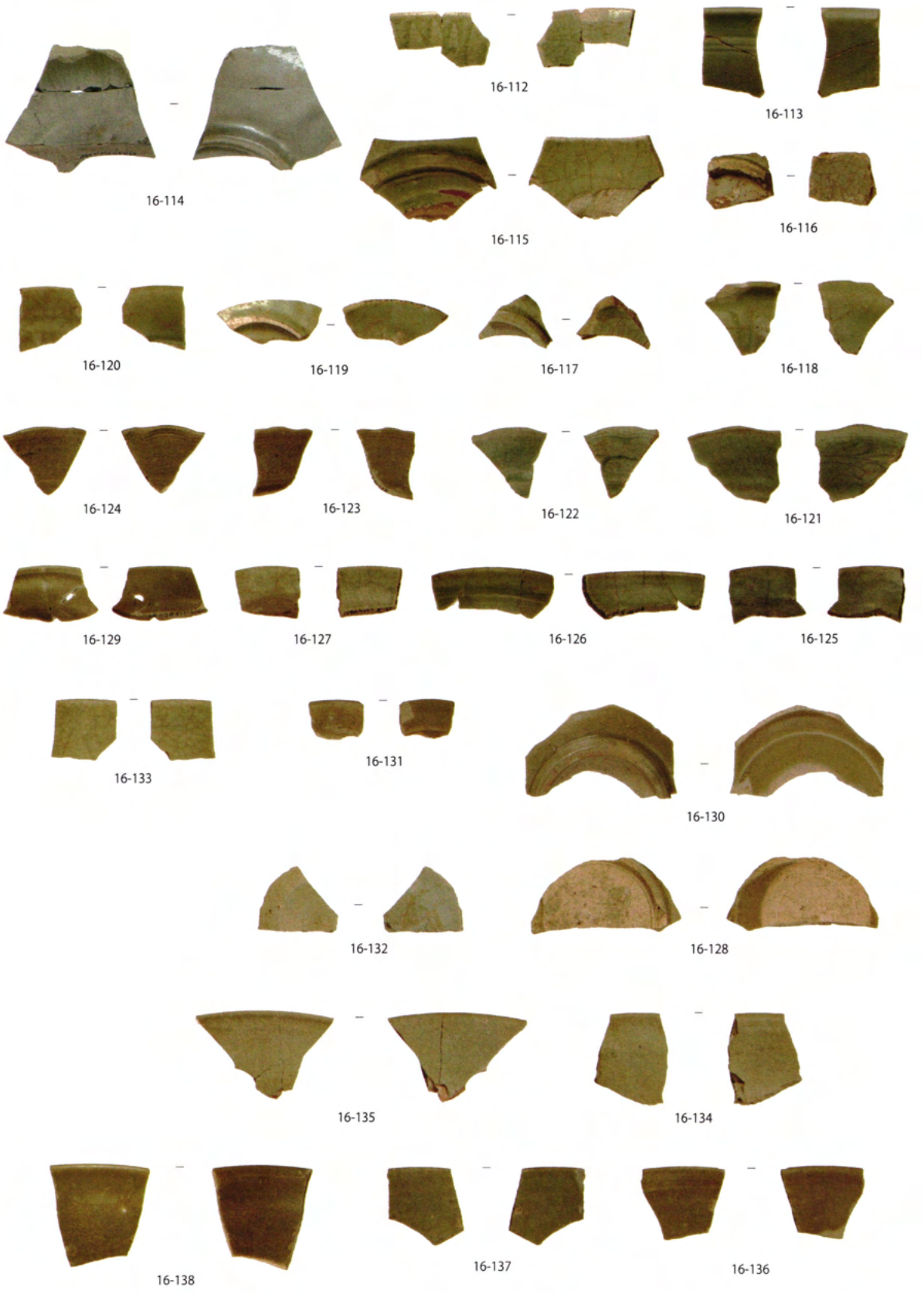
図版8　屋敷地7第Ⅰ層出土遺物①

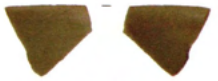
13-29
13-33
13-32
13-31
13-30
13-34
13-36
13-37
13-35
13-38
13-39
13-40
13-41
13-42
13-43
13-46
13-44
13-49
13-47
13-45
13-48
13-50
13-51
13-52
13-56
13-58
13-57
13-54
13-55
13-53

図版10　屋敷地7第Ⅰ層出土遺物③

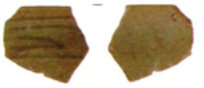
15-90
15-89
15-91
15-92
15-93
15-94
15-95
15-96
15-97
15-98
15-107
15-102
15-101
15-99
15-100
15-103
15-104
15-105
15-106
15-108
15-110
15-111
15-109

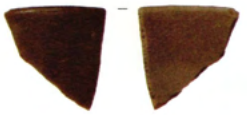
図版12　屋敷地7第Ⅱ層出土遺物①

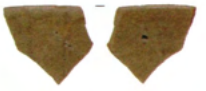


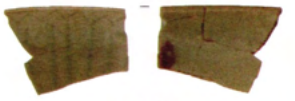

17-139

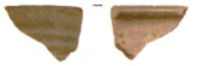
17-140

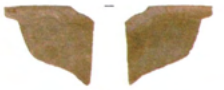

17-141


17-142

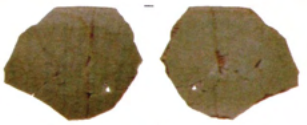

17-143


17-144

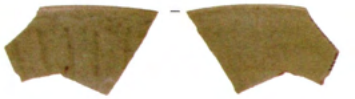

17-146

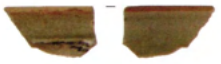

17-149

17-147


17-145

17-150


17-151


17-148

17-153

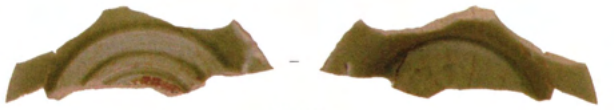
17-158

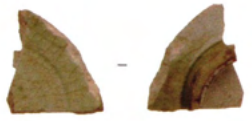
17-152

17-156

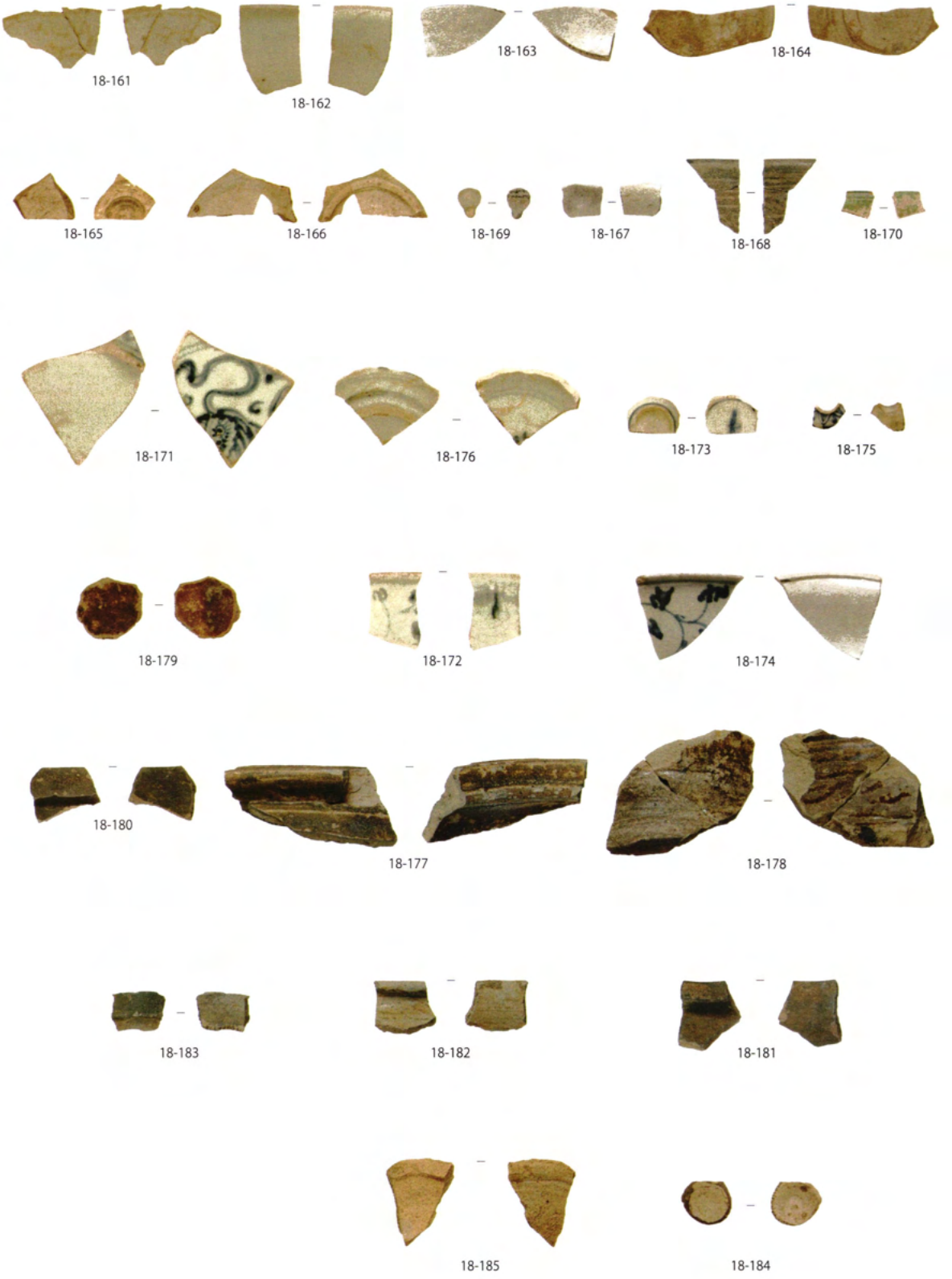
17-157

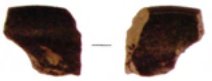
17-155


17-154


17-159

17-160


18-161
18-162
18-163
18-164
18-165
18-166
18-169
18-167
18-168
18-170
18-171
18-176
18-173
18-175
18-179
18-172
18-174
18-180
18-177
18-178
18-183
18-182
18-181
18-185
18-184



19-194

19-188

19-189

19-190

19-193

19-187

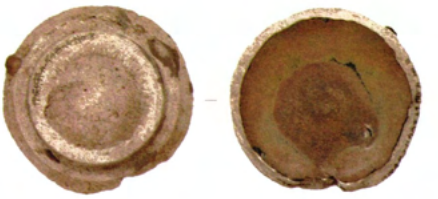
19-191

19-186

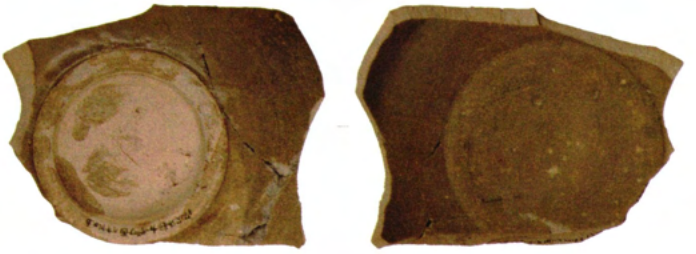
19-192

図版16　カーザフ西側城壁出土遺物

27-196



27-197



27-195

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふ　り　が　な | なきじんじょうあとはっくつちょうさほうこく7 |
| 書　　名 | 今帰仁城跡発掘調査報告Ⅶ |
| 副　書　名 | 今帰仁城跡外郭発掘調査報告4 |
| 巻　　次 | |
| シ　リ　ー　ズ　名 | 今帰仁村文化財調査報告書 |
| シリーズ番号 | 第35集 |
| 編　著　者　名 | 與那嶺俊、有銘倫子、仲村善洋、仲宗根理沙、山城勝 |
| 発　行　機　関 | 今帰仁村教育委員会 |
| 所　　在　　地 | 〒905-0592　沖縄県今帰仁村字仲宗根232　　TEL0980-56-3201 |
| 発　行　年　日 | 西暦2017年3月14日（平成29年） |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | コード<br>市町村 | <br>遺跡番号 | 北緯<br>° ′ ″ | 東経<br>° ′ ″ | 調査期間 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| なきじんじょうせき<br>今帰仁城跡 | なきじん<br>今帰仁村<br>いまじまり<br>字今泊 | 473065 | | 26° 41′ 34″ | 127° 55′ 41″ | 23年度<br>2011.4.1～2012.3.30<br>24年度<br>2012.4.10～2013.3.29<br>25年度<br>2013.5.15～2014.3.31<br>26年度<br>2014.4.1～2015.3.31<br>27年度<br>2015.4.9～2016.3.31<br>27年度<br>2016.4.1～201.3.31 | 調査面積<br>m²<br>1,500m² |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 今帰仁城跡 | 城跡 | グスク時代<br>（13～16世紀） | 城壁<br>石敷き遺構<br>石列遺構<br>柱穴<br>土坑<br>塹壕<br>ほか | グスク土器<br>カムィヤキ<br>沖縄産陶器<br>中国陶磁器<br>青磁<br>白磁<br>青花<br>褐釉陶器<br>色絵<br>タイ陶磁<br>韓国陶磁<br>ベトナム陶磁<br>肥前陶磁器<br>玉類<br>銭貨<br>金属製品<br>石製品 | 今帰仁城跡外郭城外西地区の発掘調査を行い、屋敷地６及び屋敷地７の機能を確認した。<br>カーザフ郭の城壁の根石確認調査、写真測量を実施した。<br>今帰仁城跡の史跡整備を実施。 |

今帰仁村文化財調査報告書第 35 集

# 今帰仁城跡発掘調査報告 Ⅶ

発行　2013 年 3 月 31 日
沖縄県今帰仁村教育委員会
沖縄県今帰仁村字仲宗根 232
TEL 0980 － 56 － 3201

印刷　株式会社平山印刷
沖縄県豊見城市字豊崎 3-59
TEL 098-995-6233